

賀来史同著
自然治癒力と

カイロプラクティク



賀来史同著
自然治癒力と

カイロプラクティック

推薦のことば

今日、多くの人々は、正しい健康への知識がない為に必要のない悩みに煩わされています。

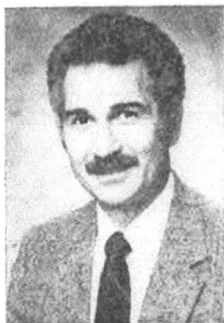
痛みや悩みというものは不愉快であり、それらを解消する為の費用は高くついてしまいい、不健康は家庭全体を犠牲にしてしまうということを、だれもが知っています。

真の健康を正しく理解している人は非常に数少ないというのが現状のようです。

健康とは、本来、社会的ストレスや病原菌に対しても適応出来、個人個人の人間性を表現する能力であり、愛を創り、創造をかきたてるものなのです。そして、この健康とは、個々の肉体とそれを取り巻く環境との調和により成り立っています。

肉体の中に健康を高める力が備わっているというのを、あなたはご存知でしょうか。

真の健康を求める人は「なぜ？」と自分自身に問いただされると良いでしょう。「もし、自然が人間を健康に創造したのであれば、自分は自然と適応しているのだろうか？」「な



T.A. Gelardi

Thomas Gelardi, D. C.
President, Sherman College of Straight Chiropractic

ぞ、自分は肉体が必要としている事と調和出来ないのだろうか?」「なぜ、自分は前向きな考え方や希望や喜びを持ち続ける事が出来ないのだろうか?」と。

本書は、健康について新しい視点に立ち、健康の本質が興味深く解説されていますので、あなたをきつと真の健康へと導いてくれる事でしょう。

健康とは、売ったり買ったりするものではありません。健康を維持する為に働いている肉体に対して感謝し、また、どのようにして人生を最大限に生きるか、など、真の健康に関する理解を深めていただく事を望んでいるこのすばらしい本を、私は推薦いたします。

この本が、あなたの人生を変え、今後のあなたの人生をより良いものにするであろうと私は確信しています。

シャーマン・ストレート・カイロプラクティック大学

学長 トム・ジェラルディ

一九八六年一月二十七日

はじめに

この本を読まれる皆さんの中には「カイロプラクティック、Chiropractic」という言葉を初めて耳にされる方や、すでに新聞・雑誌・テレビ・広告等でご存知の方も多いことだらうと思います。

カイロプラクティックを短縮して「カイロ」と呼ぶ場合がありますが、あのホットカイロの「懐炉」とは何の関係もありませんので勘違いしないで下さい。

カイロプラクティックは、人間本来の体に備わっている自然治癒力の働きを妨害している背骨の変位による神経圧迫を手によって取り除き、この治癒力であなたの体を健康な状態に導かせる為の療法なのです。

カイロプラクティックが発見されて約九十年経ちますが、初めて日本に紹介されたのは大正の初期といわれています。しかし当時は、ごく限られた人々がその恩恵を受けたのみで、一般庶民までには至らなかつたようです。しかしながら、ここ数年、カイロプラクテ

イックは一般の人々にも知られるようになり、日本に初めて紹介されて七十年程経た今、やっと全国各地に広がりを見せ始めています。

ところで、私が今回この本を出版しようと思った動機は、現在、私のオフィスを訪れられる患者さんの中に、カイロプラクティックに対して、一種の恐怖心を抱いておられたり、カイロプラクティックは腰痛・肩こりなど特定の疾患を治す治療法だと思っておられる方が多く、「はたしてカイロプラクティックは正しく理解されているのだろうか？」と疑問を持ったからです。そこで、カイロプラクティックを愛し、カイロプラクティックを実践している者の一人として、『カイロプラクティックとは、何なのか』を、現在カイロプラクティックを受けておられる方は勿論、これからカイロプラクティックを受けてみようと思っておられる方、又、人伝てに「カイロプラクティックは怖いものだ」という先入観を持っておられる方に、少しでも正しく理解していただければうれしく思います。そして、一人でも多くの方が、長年の神経圧迫から解放され、体の中から真の健康を取り戻される事を願って止みません。

昭和六十一年一月

賀来カイロプラクティック・オフィス

賀^か来^く史^{ふみ}同^お

目次

推薦のことば	1
はじめに	3
カイロプラクティックを知るために	9
カイロプラクティックの歴史	10
カイロプラクティック用語	16
自然	20
絶対的な宇宙の存在	23
宇宙の英知（ユニバーサル・インテリジェンス）	26
宇宙の英知と先天的知能	29
目に見えない知能	35
先天的知能とホメオスタシスの違い	37

先天的知能はどこにあるのか 41

先天的知能（イネイト・インテリジェンス） 46

後天的知能（エデュケイティド・ブレイン） 52

先天的知能は一〇〇パーセント 56

先天的知能は老化しない 58

先天的知能と自然治癒力 59

カイロプラクティックとは……………63

背骨と神経 65

病気の原因 80

神経圧迫を取り除く 87

神経圧迫はどの様にして起こるか 90

一番つらいところだけ良くなればいいのか 94

いつ治りますか？ 96

カイロプラクティックを受けたらもう安心か 99

カイロプラクティックの適応症 100

物質の限界 102

いろいろなテクニク(調整方法)がある 103

カイロプラクティックと医療の違い 105

カイロプラクティックにおける

治療・治療費・患者・治療院(室) 111

カイロプラクティックと健康 114

カイロプラクティックと食生活 118

年を取ると病気は治らないのか 121

肉体の自然老化は防げない 124

肉体の病的老化は防げる 127

カイロプラクティック依存症 129

定期的な検診を!! 131

上部頸椎専門カイロプラクティック……………133

上部頸椎専門カイロプラクティックでは 134

なぜ首をアジャストするのか 137

なぜ一カ所しかアジャストしないのか 142

アジャスト後どうなるのか 148

アジャスト後なぜ休ませるのか 172

なぜ期間をあけるのか 173

古傷が現われる 177

自然がすべてを決定する 180

本当にいいものって何？ 193

カイロプラクティックを知るために

カイロプラクティックの歴史

最初に「カイロプラクティックはどのようにして発見され、今日どのような形で受け継がれているのか」からお話してゆきたいと思います。



発見者 D. D. パーマー
(1845—1913年)

ところはアメリカ、一八七八年（明治十一年）のある日、腰をかかめるような格好で仕事をしていたハービー・リラードは、ある瞬間首になにか異音を感じ、それから数日後耳が聞こえなくなってしまう。時は過ぎ一八九五年（明治二十八年）アイオワ州、デブンプォートで磁気治療をしていたダニエル・デビット・パーマー（D・D・パーマー）のもとで、召し使いとして働いてい

た彼は、主人であるD・D・パーマーにこれまでのいきさつを話しました。そこでD・D・パーマーは彼が言ったその異音を感じたあたりの椎骨（背骨）（背骨）を注意深く検査していたところ、一つの隆起を発見。その隆起は、二十四個の背骨（首から腰までの骨）のうちの一個が、他の椎骨より変位（ズレ）していたのでした。D・D・パーマーは「そのズレた椎骨を元の正しい位置に戻させてくれないか？」と彼を説得し、了解を得て、その変位した椎骨を手によって正常な位置に戻したところ、なんと十七年間にわたり聞こえなかった彼の耳が、その数日後から聞こえるようになったのです。

その後、D・D・パーマーはこの経験を他の患者にもあてはめてその変位した椎骨を元の位置に戻したところ、彼等が普段訴えていた様々な症状が緩和されてゆき、また、すっかり良くなってゆくことに気づきました。そこで彼はこれ等の臨床結果と、それ迄に得た健康に関する知識と独学から『健康とは体が自然な状態である事だ』と結論づけ、『体の正常な機能に関する情報は、脳から脊髄を通して各細胞・器官・組織に送られる。しかし、その脊髄を保護している椎骨が正常な位置より変位して神経を圧迫した場合、脳からの神経エネルギーは妨害され、その結果人間本来に備わっている自然治癒力は弱められて

体は健康な状態を十分に表現出来なくなる。そこで、変位した椎骨を元の正しい位置に戻す事によって脳からの神経エネルギーの流れは良くなり、病気は体の中から良くなってゆき真の健康を取り戻す筈である』と確信したのでした。

その頃、彼の患者であり、心臓病が同じようにして、良くなった娘から話を聞いたサムエル・ウィード（ギリシア人で学者であり牧師）氏は、「このすばらしい療法に名前を付けよう、手によってなされたので『カイロプラクティック』と呼んではどうか」と提案したところ、D・D・パーマーもこの名が大変気に入り、以後『カイロプラクティック』と呼ぶようになりました。カイロプラクティックの語源はギリシア語で、カイロ（Chiro = Chiro）とは『手 = hand』、プラクティック（Praktikos = Practic）とは『術』とか『なされた = done』という意味です。このような過程を経てカイロプラクティックは誕生したのです。背骨を矯正して病気を治すという療法は古代ギリシア、ローマ時代から行なわれていたのですが、カイロプラクティックという名のもとに理論づけて背骨の治療を行なうようになったのは、D・D・パーマー以降なのです。



発展者 B. J. パーマー
(1882—1961年)

一八九五年(明治二十八年)九月十八日にハービー・リラードの背骨を治療(アジャスト)しカイロプラクティックの基礎を築いたD・D・パーマーは、一九〇一年(明治三十四年)息子のB・J・パーマーと共に最初の学校を創立し、カイロプラクティックの哲学・科学・芸術を教えました。当初は小人数の寺子屋式の学校でしたが、一九〇六年(明治三十九年)B・J・パーマーが父D・D・パーマーから学校を買い取り校長に就任してからというものは、世界各国からカイロプラクティックを学ぶ為に多くの人々がデブンポート(アイオワ州)に集まって来るようになり、一九一一年(明治四十四年)には、生徒数も一千人以上に急増しました。

彼は、父D・D・パーマーのカイロプラクティックの哲学と科学をさらに高度なものとし、また芸術の分野をより発展させていったのです。そして一九三五年(昭和十年)には『B・J・カイロプラクティック研究所』を設立し、カイロプラクティックの有効性を実証する為に西洋医学の分野(血液検査・レントゲン検査など)も導

入しました。そして一九六一年（昭和三十六年）、二十六年間にわたる研究の結果（臨床例・臨床報告・神経圧迫の確認・分析など）は、三十冊以上に及ぶ著書にまとめられ、現在も我々カイロプラクター（カイロプラクティックを行なう人）にとって非常に貴重な資料となっています。

父D・D・パーマーはカイロプラクティックの発見者であり、息子B・J・パーマーはカイロプラクティックの発展者で、この二人のカイロプラクティックに対する絶えまない努力と情熱によって、現在カイロプラクティックは一つの確立した職業として存在しているのです。そして、今日も彼等の意志は我々カイロプラクターによって受け継がれ、毎年九月十八日は、D・D・パーマーの偉業を称える為『カイロデー（カイロプラクティックの発見を記念する日）』とされています。

アメリカにおけるカイロプラクターは『ドクター・オブ・カイロプラクティック (Dr. of Chiropractic 略して D. C.)』と呼ばれ、一般の医師と同等の評価を受けています。

これに対して日本の場合は政府公認の教育機関がない事もあり、カイロプラクティックの目的が人々の間に十分理解されないままに行なわれている為か、その評価は部分的に高くとも、全体的にはまだまだ低いようです。尚、アメリカで最初にカイロプラクティックが法制化されたのは一九二二年（大正十一年）で、現在ではすべての州で法制化及び公認されています。また政府公認のカイロプラクティック教育機関として十七校のカイロプラクティック大学（六年制）があり、世界中からの留学生が熱心に勉強しています。

アメリカ以外の国では、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドでもすでに法制化されており、先進国といわれる日本でも、一日も早い法制化が望まれるところです。そうすれば、カイロプラクティックはもっと早く国民の間に浸透し、正しく伝えられていく事でしょう。

カイロプラクティック用語

カイロプラクティックには、いくつかの専門用語があります。

カイロプラクティックはアメリカで生まれたものですから、その説明をするにはどうしても最小限の英語を使用せざるを得ません。なぜなら、それ等の言葉に値するにふさわしい日本語が見あたらないからです。そこで、この英語の持つ意味を出来るだけ損わないように注意しながら、わかり易く説明したいと思えます。これ等カイロプラクティック用語を一通り頭の中に入れてこの本を読んでいただければ、一層良くおわかりいただけると思います。

○ユニバーサル・インテリジェンス (Universal Intelligence)

宇宙の英知^(叡智)……二十六ページで詳しく述べます。

○イネイト・インテリジエンス (Innate Intelligence)

先天的知能……四十六ページで詳しく述べます。

○エデュケイテッド・ブレイン (Educated Brain)

後天的知能……五十二ページで詳しく述べます。

○サブラクセイション (Subluxation)

椎骨(背骨を構成する一個一個の骨)が変位して神経を圧迫し、脳からの神経エネルギー

ギー(メンタル・インパルスとかイネイト・フォースという)伝達を妨害している状態。

※カイロプラクティックでは、このサブラクセイションが病気の原因と考えます。これに関しては後

(八十ページ)で詳しく述べます。

○アジャストメント (Adjustment)

サブラクセイションを取り除く、つまり神経圧迫を取り除く時の動作。

※このアジャストメントが、カイロプラクティックにおける『治療』に値します。カイロプラクティ

クは『手によってなされた』という語源があるように、手によってサブラクセイションを取り除きます。

○メジャーとマイナー (Major & Minor)

メジャーとかマイナーという言葉は日常会話にもでて来ますが、カイロプラクティックでは、

・メジャー……あなたが訴えるすべての症状を含む、すべての病気の原因となる所（椎骨）をいい、一つのサブラクセイションが全てに影響を与える箇所をいう。

・マイナー……直接すべての病気の原因とはならない箇所、背骨の幾つかの部分
が補正作用として二次的に変位をおこして症状（病気）を引きおこしている箇所をいう。

○カイロプラクター (Chiropractor)

カイロプラクティックの哲学・理論を持って『サブラクセイション』を追究し、カイロプラクティックを行なう人をいいます。あなたが訴える症状・病名は何であらうと、また、幾つあらうと関係ありません。カイロプラクターは原因であるサブラクセイションをアジャストし、あなたの病気の診断と治療は、すべて自然（自然治癒力）にまかせます。

以上が、これから頻繁に出て来るカイロプラクティックの用語です。

自 然

カイロプラクティックを語るには、自然を抜きにしては何も語る事が出来ません。ですから、まずこの自然から話を進めてゆきましよう。

人間による自然破壊が進む一方で、自然は人間に対して厳しい試練を与える反面、安らぎも与えてくれます。おだやかな海、雄大な山、川のせせらぎ、どれも私達をホッと生き返った気持ちにさせてくれます。

自然は人間にとってなくてはならない存在であり、自然あってこそ人間は生きてゆけるのです。

ところで、私達が日常使用する『自然』という言葉には、実体があって実は実体のな

い、全体的に何となく漠然としてつかみどころのないものといった感もあります。

例えば、目に見える自然とは、地球上でいうと、海・山・川やそしてそこに生息する生命体などをさします。この場合の自然は誰もが容易に理解出来ます。しかし、一方では「自然に任せる」「自然の流れに逆らう」など、言葉上だけで実体のない自然もあります。

このように『自然』という言葉の中には、実体のあるものと、そうではないものが同居していて、私達はそれを何の抵抗もなく、又何の疑問ももたずに使っています。それはきつと、人間が自然の一部に位置付けされているからなのかもしれません。

では、ここで言う「実体のない自然」とは一体何なのでしょうか？

私は、この実体のない自然を目で確認した訳ではありませんので私流にしか言えませんがこの実体のない自然とはこの大宇宙の事をさし、この地球上で私達が目にする海・山・川など実体のある自然は、地球を構成する自然の一部であって、地球はまたこの宇宙という自然の一部なのです。つまり、目に見える自然と、実体のない自然は表裏一体の関係にある訳です。そこで前述の「自然に任せる」という意味は「この宇宙の英知のなすがままに」と解釈出来ると思います。つまり、この宇宙には、人間の力ではどうすることも出来

ない『宇宙の法則（自然の法則）』があり、そこには「なるようにしかならない」という宇宙の絶対性が存在しているのです。

夜空を見上げてもおわかりのように、この宇宙空間は、地球を含む他の天体の共存で成り立っていて、それは組織化された集団で一つの生命体として息づいているのです。

絶対的な宇宙の存在

科学の進歩によって、人間は自然界における様々な営みも数値で表わす事が出来るようになりました。人体に関していえば、懐妊から出産までは二百八十日、生理は二十八日周期（勿論、これ等には個人差があるのはいうまでもありません）。地球に関していえば、自転は二十三時間五十六分四秒、公転は三六五・二五六四日という周期があり、地球と太陽の距離は一・四九六×一〇の八乗キロ（約一億五千万キロ）と私達が普段あたり前のように感じている中にも自然（宇宙の英知）は私達人類、また地球全体にとって一番良い条件を保っています。

しかし、このように人間の知恵（教育された脳）により発見した数値も、実はそれは新発見でも何でもなく、人間が発見する以前にすでに決定している、存在しているものに気

づいただけの事なのです。

例えば、赤ちゃんは物心つくまで空の存在を知らない（気づいていない）かもしれませ
ん。でも成長するにつれてその存在をはっきりと目で確かめ、脳に記憶させ「これは空
だ」と知ることになります。ここで、赤ちゃんにとって空の存在を知るといふ事は新発見
なのですが、空は赤ちゃんが気づく以前から、又誕生する前から存在しているのです。

人体のまだ解明されていない部分においても、これからますます研究が重ねられ「新発
見」がなされてゆく事でしょう。しかし、それはすでに存在している物に気づくだけの事
であり、本当の意味での新発見ではないのです。例えば、

生と死

潮の干・満

気候の変化

地球の自転

なども人間の知恵が決定した事ではなく、人間が誕生する以前に決定しているものであ
って、私達人間にはどうすることも出来ない事なのです。このように目にみえない自然の

法則と、滅ることのない宇宙の力から私達が逃げ出す事は絶対に出来ません。ここに絶対的な宇宙の存在があります。

かの彫刻で有名なロダンがこのように言っています。

『宇宙には、緊急な、致命的な動かさせない法則がある。なければならぬ。そして、その運命を取り囲む千の恵みがある』

自然、宇宙と続きますと、中にはカイロプラクティックは新興宗教ではないかと思われる方がおられるかも知れませんが、宗教とは何ら関係ありません。自然・宇宙は認めようが認めまいが、又、興味があるうがなからうが実際にそれは存在しているのです。そして、その中で私達は生きています。ですから、この普遍的宇宙（宇宙の英知）の存在は、カイロプラクティックを語る前に、是非とも理解しておいていただきたいのです。そして、この宇宙と人間とのかかわり合いの中で、私達が自然な状態で健康を維持して行くにはどうしたら良いかを追究したものがカイロプラクティックなのです。

宇宙の英知（ユニバーサル・インテリジェンス）

宇宙空間には、様々な物質、非物質が存在し、そしてそれ等は相互依存の関係を保ちながら組織化された集団で形成されています。

この宇宙には内なる英知があり、これをカイロプラクティックでは『ユニバーサル・インテリジェンス』と呼んでいます。ある英和辞典では「ユニバーサル」は「宇宙の」「万有の」「普遍的な」となり、「インテリジェンス」は「知能」「智慧」「知性的存在」「理解力」などと訳されています。

すなわち、この宇宙の英知とは、宇宙空間に存在する全てのものを創造した根源であり、それ等を支配し、活動させ、調整し、維持しているのです。ここにいくつか例を挙げてみましょう。

○「生命の誕生と死」

生まれたものは、必ず死に至ります。これは何人たりとも避ける事の出来ない事実なのです。そしてそれは宇宙の運営の為、調和を計る為の宇宙の英知による必然的な行為なのです。

○「地球の自転」

地球は自転し、太陽の回りを公転しています。それにより、朝・昼・夜や季節が存在します。

○「女性の生理(月経)」

女性として生まれた人は誰もが思春期から更年期にかけて経験します。生理や出産は月の運行周期とも深い関係があるといわれています。

○「空気」

私達が生きていく上において、空気はなくてはならないものです。しかし、その空気がもしくなかつたらどうでしょう。地表は太陽の激しい光熱、宇宙線、宇宙塵にさらされて生物が存在する事さえ出来ないのです。さらに空中を音が伝わら

ず、物が燃える事もなく、大気圧や風や雨も存在しないのです。またその組成（酸素・窒素・二酸化炭素・アルゴン等）は常に安定した状態に保たれています。

○「天候」

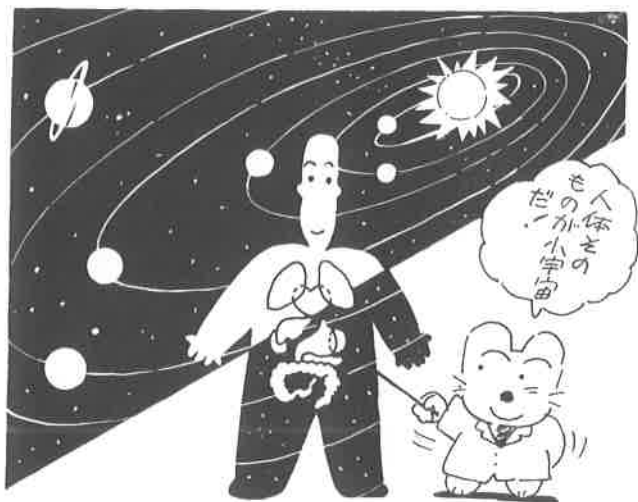
雲量・風・気温・湿度などの影響を受け、天候は毎日変わってゆきます。晴れあり、くもりあり、雨あり、雪あり。そしてその恩恵を受けて、現在地球上には多種多様な生物が生きています。勿論、人間の知恵の結果である科学技術をもつて、一時的に気象の変化を起こすことは可能かもしれませんが、いずれ、宇宙の英知は、本来のあるべき気象状態に戻ってしまうでしょう。

以上、いくつかの例を挙げましたが、これ等自然現象はただ無秩序に行なわれているのではなく、宇宙全体を常に考慮し、宇宙全体にとって（人間にのみ都合の良いようにではなく）最も理想的なバランスが保たれるよう方向づけられているのです。

宇宙の英知と先天的知能

それでは、宇宙の英知とカイロプラクティックにはどのような関連があるのでしょうか。

宇宙空間には、地球・月・太陽・土星・水星・金星など多くの物体（惑星及び恒星）が存在し、宇宙の英知はこれ等に特性と活動を与えています。そしてそれぞれがその与えられた目的を果たす事により、この大宇宙の運営秩序は保たれているのです。そして、これらはいうまでもなく宇宙の英知（ユニバーサル・インテリジェンス）のもとに機能しています。そこで人体を小宇宙に譬たとえてみますと、人体そのものが宇宙にあたり、目・口・耳・胃・心臓・腸など各器官が宇宙に存在する地球・月・太陽などに相当するのです。例え



ば、月が胃、太陽が心臓というように。そこでこの小宇宙の目には目の、口には口の、耳には耳の、胃には胃の、心臓には心臓の目的が与えられ、これ等は一つの体内にあって、それぞれに課せられた任務を間違いなく遂行し、お互いに関連し合って人間という肉体のバランスを保っているのです。

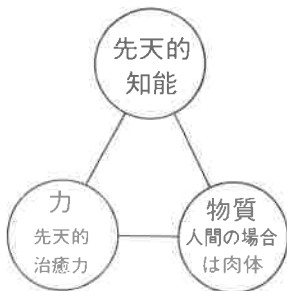
人間の肉体は宇宙の英知がもたらしたものであり、私達の体には生命体特有の消化・吸収・排泄・適応・成長・再生・生殖作用といった特性と活動が与えられています。そして、この肉体に備わっている生命活動の根源をユニバーサル・イ

ンテリジェンス（宇宙の英知）に対して、イ
 ネット・インテリジェンスⅡ「先天的知能」
 あるいは、「生得の英知」と呼んでいます。
 この内在の英知こそ、人体のすべての機能を
 開始させ、調整、維持している生命の本源と
 なります。

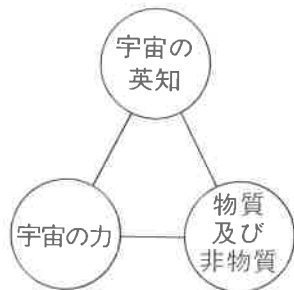
カイロプラクティックから生命をみた場
 合、人間を含む全ての生物（生命体）は、「先
 天的知能」と「力」と「物質」から成り立っ
 ていて、生命体は次のように解釈することが
 出来ます。

前提——宇宙の英知（原因）なくして、物
 体の存在（結果）はあり得ない。

三位一体の生命



（生命体＝小宇宙）



（大宇宙）

○先天的知能（イネイト・インテリジェンス）

知能は力を創り出す。

○力（イネイト・フォース、神経エネルギー、メンタル・インパルス）

力は物質（人間では肉体）を機能させる。知能と物質を結びつける。

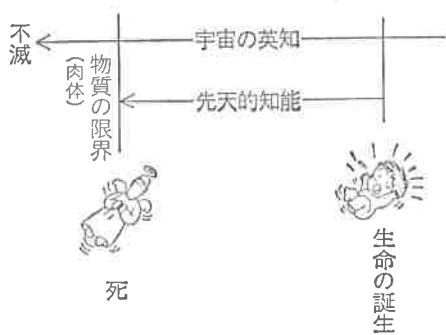
○物質（マター）

物質は機能する事によって力を表現し、又知能の存在を証明する。

そしてこれを『生命の三要素』三位一体の生命』と呼んでおり、これ等が一体となって始めて生命体として現存する、と考えます。

宇宙の英知によってもたらされた生命体は、常に宇宙の英知のもとに管理され、よって生命体に備わっている先天的知能は、宇宙の英知同様にその知能（英知、智慧）も知能で創り出される力（普遍的力）も、完全なものとして、増える事も減る事もなく常に一定しています。なぜなら、先天的知能は宇宙の英知の一部だからです。

生命の三要素の中で限界があるのは物質のみであり、人間においては肉体の限界だけな



のです。例えば、手術によってある部分を摘出する、外傷により体の一部を失う、虫歯や歯槽膿漏で歯がダメになる……、など一度失ったものをまったく同じ状態、機能に戻そうとしてもそれは不可能な事なのです。そうでなくとも人間の肉体は自然の法則によって、新しいものは古くなるという老化の道をたどります。例えば五十歳の人が何とか十歳の肉

体に戻ろうと思っても、五十歳の肉体はやはり五十歳なのです。そこで「宇宙の英知」と「先天的知能」に関しては次のようにいえます。

「宇宙の英知」は創造的で破壊的。例えば生命の誕生→老化↓死に至るといふように。一方「先天的知能」は常に建設的。例えば怪我をしても、病気になっても、肉体の一部を失ったとしてもその怪我の度合、病気の種類、年齢に係なく、限界(死)に至るまで最大限に生かそうと努力します。つまり、肉体のおかれている状況下において、最大限に治そうとするのです。

生命体は常にこの「宇宙の英知」と「先天的知能」の同時進行であると言えます。

結論として言える事は、人間（生命体）には、年齢に関係なく死に至るまで先天的知能が働いており、それは老化と共に低下するものではなく、その肉体の状況下で完全なものとして存在するのです。ですから「年だから治らない」とか「年だからあきらめなさい」と決めつける事はないのです。本当に治るか否かを決定するのは人間の知識によって判断するのではなく、体に関しての最終的判断を下すのは、自分自身を現在生かしている内在の英知なのです。

目に見えない知能

人は誰も目に見えないもの（実体のないもの）は信じたくないものです。宇宙の英知・先天的知能なども実体のないものであり、それを誰も見たことがないので「信じられない」と言われても仕方ありません。しかし、それが確かに存在するのだという事を物質を通して知る事は出来ません。

例えば、外を歩いていて電線を見た時、その中に電気が流れているのを見た人はいないでしょう。でも家に帰って照明器具やテレビがついたりする事によって、電気が流れて来ているその事実、目に見えない存在を簡単に受け入れています。この電気というエネルギーは実体がないにもかかわらず、照明器具やテレビなどの電気製品『物体（マター）』を通してそれを機能させる事により存在を証明しているのです。

これが人間の場合ですと、自分の肉体を最大限に生かそうとする先天的知能があり、私達は今、生きている自分の姿を通してその目に見えない知能の存在を証明しているのです。電気製品は電気というエネルギーで作動し機能します。そして人間は先天的知能によって始動し機能しています。

この先天的知能の存在は、カイロプラクティックのアジャストメントを通してでも証明する事が出来ます。

先天的知能とホメオスタシスの違い

カイロプラクティックでいう先天的知能とよく似たものに、医学でいう『ホメオスタシス』という言葉があります。これは『生体内恒常性』と呼ばれるもので、医学事典によりますと「ホメオスタシス……アメリカの生理学者キャノン（一八七二—一九四五年）が唱えた説。生物を組み立てている構造上の単位。すなわち細胞一個を取り巻く環境はその生物を取り巻く環境と同じで、組織液や血液がその働きをする。この内部環境を常に一定に保つ事によって生物はその機能を充分に發揮する事が出来る。この生体内の恒常性をホメオスタシスという。生体は常に合成と分解・摂取と排泄・刺激と反応の生理的現象によってその機能を發揮しながら恒常性を保っている。これ等の調節は神経性及び体液性（ホルモンの）の調節によって行なわれる。この調節機能のアンバランスによって色々な疾患が起こ

る」「動物には体内の状態を一定に保つ仕組み、すなわち恒常性（ホメオスタシス）を維持する仕組みが備わっている。この恒常性の維持機構として、ホルモンと自律神経が重要な役割を果たしている。脊椎動物では両者とも視床下部に中枢があり、活動を調節している」（原文のまま）と説明されています。

これを総括して解釈しますと「健康な人間の体内は一定の安定した状態に保たれており、それは脳にある視床下部で調節されている。なぜなら、視床下部は自律神経（交感・副交感神経）・内分泌系（ホルモン）の中枢であり、ここでは体温調節・血糖値の維持調節・水分代謝・性機能調整・ホルモン調節が行なわれているからである」という事になります。

ここで気付付きのように、現在の医学は生きている人間の頭の中にある脳が機能している状態（勿論、それだからこその体は機能しているのですが）から生体をながめているのに対して、カイロプラクティックは「それでは、その脳を動かしている（機能させている）ものは一体何なのか。つまり、脳の一部である視床下部、あるいは脳全体が機能する為にはその脳という物体を動かすための力（エネルギー）」とその力の根源である知能がなければ始

動・機能しないではないか」というところから出発しているのです。

例えばここにエンジンのかかった車があるとしみます（ちょうど脳が機能しているように）。では、このエンジンはどのようにして作動したのでしょうか。車はそれ自体ではエンジンをかける事は出来ません。そこにエンジンをかける（始動させる）人間がいて始めて車は車としての機能を果たすのです。人間もこれと似ていて、宇宙の英知によってもたらされた肉体は、その肉体の一部である脳の命令の基に機能するようになっていきます。つまり、脳にそれを機能させる為の機構が備わっていて、その脳が機能を始める事によって全身が機能する機構になっている、といえると思います。そこで人間の脳も、車のキーを人間が回してエンジンをかけ始動させるように、先天的知能がその脳の機能を始動させ全身を調整するのです。車は人間の知能（知恵・知識）で機能し、人間は先天的知能（智慧）で機能しているのです。脳が、あるいは体全体が機能する以前に脳を機能させるもの（宇宙の英知・先天的知能）の存在があつて始めて人間の体は生体（動きある肉体）として機能するこゝとが出来るのであるのです。

ですから医学で言うホメオスタシスとは、この先天的知能が全ての生命体にもたらした

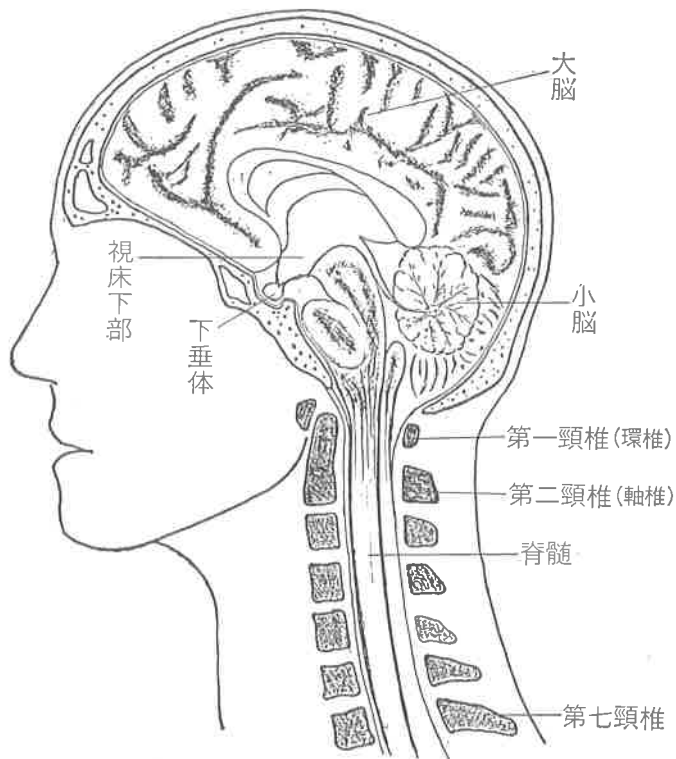
生命維持の為の必然的な結果であるということがいえます。先天的知能があつてホメオスタシスがあるのです。

先天的知能はどこにあるのか

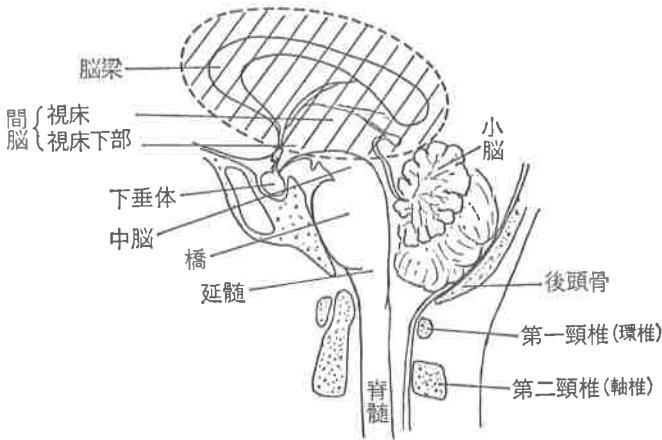
では、この先天的知能（イネイト・インテリジェンス）は一体からだのどこにあるのでしょうか。

先天的知能は体の全てを機能させる根源です。この先天的知能は体がどんな過酷な自然環境の中にあっても、その状況下において最大限に肉体（物質）を生かそうと努力します。これは体の本能的行動なのです。そこで、もう一度前ページのホメオスタシスを思い出してみてください。生体内の恒常性は脳内の視床下部で保たれています。この視床下部は自律神経（交感・副交感神経）の中樞ですが、これをさらに上位より支配しているのが大脳辺縁系（旧・古皮質から成る）と言われるもので、別名『内臓脳』とも呼ばれています。この大脳辺縁系は自律神経（内臓及び各器官を調整している）の最高中枢部となっています。

〔腦〕



大脳辺縁系  線内



ここでは視床下部からの刺激により食欲・性欲・喜び・悲しみ・怒り・恐れ・快感・集団形成などの本能的生命活動が個体の維持と種族保存の為に営まれていると言われています。大脳辺縁系・視床下部の機能に関しては、ネズミやネコなど動物を使った実験でも証明されていますし、医学的には人体の本能の坐は大脳辺縁系にあると医学書に記されています。

それでは先天的知能はこの

大脳辺縁系にあるのでしょうか。ところが、本能の坐が大脳辺縁系にあって、そこに先天的知能があるとはいいきれない疑問点も出てくるのです。なぜなら、大脳辺縁系も視床下部も、脳の中に存在する出来上がった部分をみているのであって、その形態を成す以前はたった一個の受精卵だったのです。この一個の受精卵に備わっている先天的知能の力により、脳もそしてその中に位置する大脳辺縁系も視床下部も、すべて人間としての形が整えられてゆく段階において先天的知能が決定する順序に従って脳の一部に形成されたに過ぎないのです。つまり、人間がどこそこに本能の坐があると位置づけする以前に受精卵の時からすでに生命維持のために本能的生命活動を営んでいる事になるのです。ですから医学的には確かに「大脳辺縁系に本能の坐がある」としても、カイロプラクティックの考えでは「そこに先天的知能が存在するという事にはならない」という事になります。

しかし、受精卵に存在する先天的知能は人体として形成してゆく上において、またその形成後においても生命維持の為に最も合理的かつ機能的に情報の収集並びに情報の伝達を行なえる所に居することには違いありません。そして「その場所は脳である」と。言い替えば、受精卵の時すでに脳となるべき所にあったと考えていいでしょう。

「宇宙の英知」の場所を限定する事が出来ないのに「先天的知能」を「脳」に限定するのはおかしいのではないかと思われるかもしれませんが、現時点においては脳が全身の機能・調整そして調和を維持している事は医学的にも証明されており、この事からも先天的知能は「脳」に存在するといえるでしょう。しかし「脳のどの部分」と限定する事は出来ません。もつとも受精卵細胞という一つの細胞分裂から莫大な数（成人の場合約六十〜七十兆）の細胞を持つ一人の人間が創られる行程をおもえば、先天的知能は人体を構成する全細胞にあるとも言えます。しかし、この全細胞の組織化又は統一化を計るにはやはり中心的存在を無視する事は出来ないのです。

そもそも「宇宙の英知」も「先天的知能」も実体のないものであり、仮に先天的知能が「脳」にあるとしてもそれがレントゲンやC・T・スキャンや顕微鏡などで確認出来るというものでもありません。しかし、肉体という「物質」が機能しているという事はそこに「知能」とそれを機能させる為の「力」があるという事を証明しています。そしてこの脳にある先天的知能で創られた「力」は人間の体をはりめぐらす神経を通して全身の器官・組織の細胞へと伝達されているのです。

先天的知能（イネイト・インテリジェンス）

それでは先天的知能はいったい私達の体の中でどのようなことを行なっているのでしょうか。

先天的知能は人間だけが持ち合わせているものではありません。それは全ての生命体に備わっているものであり、それ等はすべて本能的生命活動を営んでいます。先天的知能は、後で述べる後天的知能（教育された脳）のように誰かに教わったり、学問を通して得た知識やその中から生まれる知恵（人知）で生命を維持しようとするのではなく、誕生の時すでに脳内に生命維持及び種族保存の為に備わっている英知であって、これは人間の教育された脳とは比べものになりません。先天的知能は、まず間違いを起しません。なぜなら、先天的知能は宇宙の英知の一部であり、宇宙の英知がもたらした自然の法則に忠実に機能

しているからです。

例えば、男細胞と女細胞の結合に始まり、それによって生じた一つの細胞（卵細胞）は、子宮内でその細胞内の先天的知能の力によって細胞分裂をくり返しながら、まず、生命維持の為に最も重要な脳・脊髄・脊柱（背骨）・手・足という風に上方から下方へと成長させてゆきます。勿論この時顔はどんな形で、鼻はどの場所にどのように、目はどの場所にどのように、耳は、心臓は、手は、足は……。という風にその器官の位置・大きさ・数・形態などすべてを決定してゆくのです。そして、胎内での約十ヵ月間、母体から栄養の供給を受ける方法も知っています。母体がいかに最悪の状態（睡眠不足・偏食やアルコール・たばこ・薬物等、体に悪影響を及ぼすもの）の摂取、また精神的・肉体的ストレスのある状態）であっても、胎児の先天的知能はその置かれた環境の中で最大限に働きかけ、その中で一番良い状態を創り上げてゆきます。ですから、それがいかに人間社会から、また人間の常識から見て「奇形」「異常」といわれる形で誕生しようとも、胎児の先天的知能はその置かれた環境のもとで自然の法則に従って最高の生命体（赤ちゃん）を創り上げたことになるのです。勿論誕生した赤ちゃんの形態は双方の遺伝子にもよりますが、出産までの胎内での胎

児及び胎児の遺伝子に与える母親の影響も大きいのです。

現代はまさに健康ブーム「健康にはこれがいい、食事は、運動は……」と様々です。しかしそれがあなたにとって本当に良いのか否かは先天的知能が判断してくれるのです。私達は毎日、何らかの物を口に使っています。そして食べ物が口に入った瞬間にあなたの先天的知能はその食べ物があなたの体にとって必要なものか、そうではないのか適確に判断して、必要なものはあなたの生命維持の為、一つの無駄もなく使用し、不必要なものは排泄させます。そして先天的知能はあなたが食べた野菜・くだもの・肉類・穀類・魚介類などから、血液・ホルモン・体液などを、体が必要としている量（適量）だけ製造する事も知っていますし、またそれを決して必要以上に、造ろうとはしません。あなたが食べ過ぎ、飲み過ぎ、古くなったものを食べたりする事によりお腹をこわすのは、あなたが必要以上に飲食したり異物の侵入したのを知らせ、体から悪い物を一刻も早く排泄させることにより、体の正常化を計ろうとする先天的知能の配慮なのです。

先天的知能は、あなたが起きている時も、寝ている時も、一日二十四時間、一年三百六

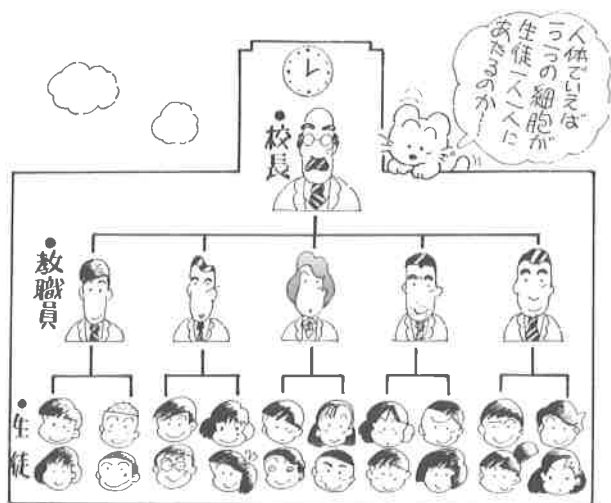
十五日、あなたが生きている間中休む暇もなく体のすべてに働きかけています。例えば、あなたが意識していなくとも心臓や胃や腸は休まずその機能を果たしていますし、あなたが知っていないなくとも、内在の英知は太陽光線を浴びる事により体内でビタミンDを製造する事も知っています。また風呂にはいった時、目が曇らないように調整する事も知っています。メガネのレンズは曇ることはあっても、人間の目のレンズが曇る事はありません。人間が創ったものと、自然が創り上げたものとの間にはこんな違いがあるのです。自然の力が創ったものは、自然（先天的知能）が一番いい状態に調整してくれるのです。疲れたら、体を休めさせる事により、睡眠をとらせる事により疲れを取り除いてくれますし、目にゴミが入ったら、涙を出してゴミを洗い流してくれます。また怪我をすればちゃんと出血を止め傷を塞いでくれるのです。

これ等はすべて先天的知能によるものです。先天的知能は、あなたがこの世に生まれてから死に至るまで、一生を通してあなたの体をいかに成長させ維持してゆくかを知っているのです。そして十歳の時には十歳にふさわしい、五十歳の時には五十歳にふさわしい状態に創り上げ維持してゆきます。これは、母胎内での成長の延長でもあるのです。

自分の体のことを色々と複雑に考えてあれこれとやってみるのが悪いとはいいませんが、人間に出来る事はというと非常に少ないものなのです。それに比べ先天的知能は、私達人間が考えている以上に複雑な人体のことを思いやり、生命維持の為すべてを確実に間違わずに実行しているのです。

いくつかの例をとり挙げてみましたが、ここで私が言いたかったのは、人体を構成するすべての細胞は先天的知能のもとに組織化され、運営・調整・維持されているのだという事です。体のどこかに異常が生じ、その組織化を分裂させるような事態が起こった場合でも、先天的知能はその分裂を再度組織化へ向けて努力するのです。例えば「怪我をしても放っておいたら治っていた」「放っておいて病気が治った」などはその再組織化(再生作用)の典型的なものです。

組織の背後には、必ず組織化を進めたものが存在し、その組織の運営と維持にあたっています。これは人間社会においても言えます。例えば、ここに学校があります。学校は生徒という集団で成り立ち、その組織は校長という代表者によって運営・維持されています。そこでもしこの組織が何らかの形で乱され、学校の運営・維持に支障をきたすような



事態が起こった場合、校長はその事態の対応策を講じてそれなりの行動を起こし再組織化（本来あるべき姿に戻す）の為に努力します。この校長にあたるのが、人体というと先天的知能であり、宇宙でいうと、この宇宙を運営・調整・維持している宇宙の英知にあたるのです。このように、人間社会にも、人体にも、宇宙にも『自然の法則』が存在しているのだということがお解りいただけると思います。

後天的知能（エデュケイティド・ブレイン）

後天的知能は先天的知能の存在があつて始めて存在しうるもので、それは人間が誕生してから死に至るまでに人間社会の中での教育機関、またテレビ・ラジオ・新聞・雑誌などの伝達機関、そして日常生活の中での経験、また行動を通して得た情報・知識やそこから生まれる生きてゆく為の知恵（人知）をいい、別名『教育された脳』とも呼ばれています。

しかし、人間がこの後天的知能のみで体の問題を解決しようとした場合、それによって新たな難問を背負い込むことになるという事は周知の通りです。例えば副作用・不適合・拒否反応などのように。

病気を治す為には、長生きする為には、健康になるには、症状を取るには……などに対して様々な方法を考えるのは人間の知恵（後天的知能）による判断であり、必ずしもそれ

がうまくゆくとは限りません。なぜなら、後天的知能はあくまでも人間の教育された脳であり、それによってとられる物事に対しての考えや判断そして行動は、個人的・社会的には「正しい」「常識」「あたり前」であっても、自然界からすると「異常」「非常識」の場合があるのです。つまり自然（先天的知能）は絶対に間違いを起こすことがないのに対して、教育された脳（後天的知能）は完全なものではないからです。

後天的知能は真実の部分とそうではない部分（自然な部分と不自然な部分）から成り立っていて、この双方の占める割合は人間の都合によって常に変化します。しかし体に関して、その真実の部分は先天的知能だけが知り得るところなのです。

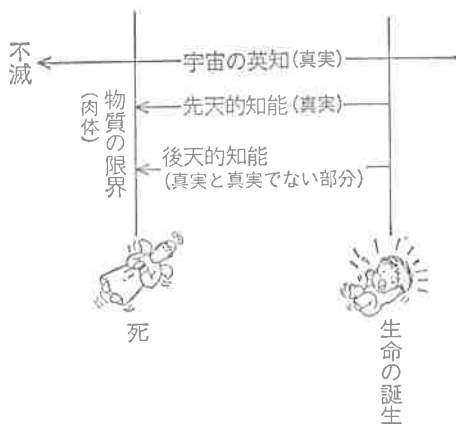
先天的知能は人類（生命体）がこの地球上に誕生して以来二十世紀の今日までズーッと個々の体の中で自分自身に合った状態を創り上げて来ています。ところが後天的知能（教育された脳）では、医学が進歩しているにもかかわらず「血液」さえ創る（人工的に）事が出来ません。ですから血液は現在も献血にたよらざるを得ないのです。もし人間に、その人に合った血液を創り出すことが出来るようになれば献血もなくなるでしょう。しかし、どんなに科学や医療が進歩しても、体の状態に応じた同成分・同濃度・必要量（適量）の

血液を製造する事は不可能でしょう。

人工心臓、人工腎臓、人工骨そして臓器の移植などにも同じ事が言えます。これ等の発明・研究・開発により尊い生命が救われみごとに社会復帰された方の姿を私はテレビなどを通して知っています。しかしながら中には、自然が創り出したものではないがために機能に適応出来ない『拒絶反応』も生じているのです。体は先天的知能（自然）が与えたものとは何の抵抗もなく調和します。しかし人間の教育された脳によるもの（人工臓器・化学物質などの異物）が体内に入った場合、先天的知能はそれはどういふ物なのか、どのようにつきかを判断し、その与えられた環境の中で最大限に生かそうとしますが、生命の三要素のうちの一つである肉体が適応の限界を越えてしまった時『拒絶反応』を起こしてしまうのです。

このように人間がいかに最新技術をもって病気や症状に対応しても、ままこのような事態が起こってしまうのです。それは後天的知能の不完全さを証明しています。つまり、どこまでが完全なもの（自然）であるかという事は、先天的知能にしか解らないという事です。

後天的知能というものは、先天的知能によって生かされている人間がよりよく生きてゆくとする為のものであり、この先天的知能と後天的知能によって私達人間は一生を通して自分自身を管理してゆくことになるのです。つまり完全なる知恵である先天的知能と、



不完全な知能である後天的知能の共存の中で、いかに真実の部分を多く見出し出してゆかということが生きてゆく上において大事なことなのです。すると「健康になる為にはどうしたら良いか」に対する解決法はおのずと浮かび上がって来るのです。それは後天的知能で体を変えようとするのではなく、いかにして先天的知能に体をより良い状態にもってゆかせるか、そしてその為にはどうすれば良いのか、ということなのです。カイロプラクティックの目的は、まさにここにあるのです。

先天的知能は一〇〇パーセント

先天的知能は宇宙の英知の一部であって、それは完全不動のものとして存在しています。そして後天的知能（教育された脳）が質・量的に個人差があるのに比べて、先天的知能には全く個人差はなく、社会的に偉いといわれている人、頭が良いといわれる人、また家が豊かであるとかそうでないに関係なく皆が平等に持っています。その証拠に偉い人も天才も凡人も病氣や怪我をした場合、皆おなじように治癒してゆくでしょう。

『三位一体の生命』（三十二ページ）のところで述べましたように、生命体は知能・力・物質から成り立っており、その中で個人差があるのは物質のみで、人間の場合はそれが肉体にあたります。例えばここに同じ年齢の人が十人いるとします。その十人はそれぞれ身長

・体重・顔つきなど違います。しかし皆人間であることには違いないし、生きていることにも違いありません。生きているということは先天的知能の証明であり、先天的知能とそこで創られる力は、その人の肉体（物質）が必要とする量に比例して存在しているのです。テレビを例にとって解り易く説明しますと、テレビは人間の教育された脳の産物で、生命体としての先天的知能は備わっていませんが、人間の手でスイッチを入れる事によってテレビとしての機能を果たす事が出来るように作られています。そこでここに大型と小型のテレビが一台ずつあるとします。大型と小型を比較すると確かにサイズ・重量は違っています。しかしテレビがテレビである事に違いはないし、機能するという事においても違いはありません。そして大きさに関係なくテレビ本体に接続されている電源コードに流れている電流の電圧はどちらも一〇〇ボルトと変わりありません。ただ大型は大型なりの、小型は小型なりの映像・音声を最大限に表現し、その機能に比例した電気を消費するので、人間の場合も、一人一人の肉体に比例して先天的知能は一〇〇パーセント働かれています。

先天的知能は老化しない

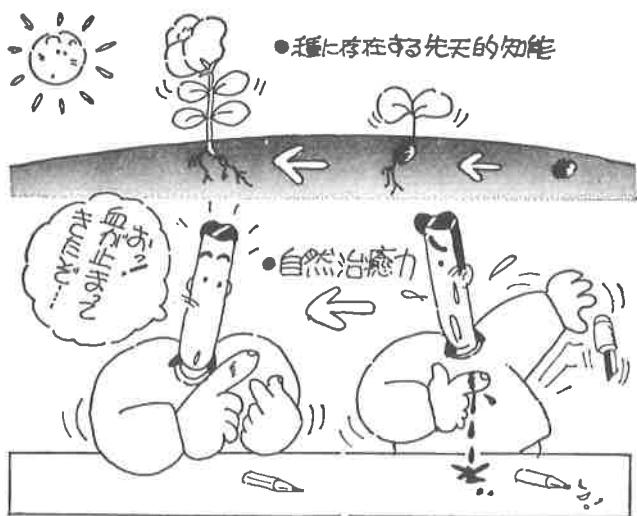
物質の老化は、生物・無生物をとわず起ります。しかし先天的知能には老化はありません。例えばあなたが十歳の時怪我をした時も七十歳になって怪我をした時も同じようにあなたの先天的知能はその傷を塞いでしまうでしょう。つまり、あなたの肉体がいかに老化しようとも、あなたの先天的知能は年齢に関係なく傷を治す方法を知っています。そしてこのことは、病気を治す能力においてもいえるのです。

先天的知能は老化しないのです。ですから先天的知能によって生かされている人間の後天的知能である知識・知恵、そして精神・意志なども老化することはありません。「無邪気な心を持ち続ける」ことも「常に青春であり続ける」ことも可能なのです。

先天的知能と自然治癒力

『自然治癒力』という言葉は日常頻繁に使用されていますが、それはただ単に「病気を治したり、怪我を治したりする力である」と思われている方が多いようです。そこでここでは「自然治癒力とはいったい何なのか」「先天的知能とどう関係あるのか」について述べてみたいと思います。

動物にしろ植物にしろ、この大宇宙（自然）の中で生かされているわけで、自然の法則のもとにどのようなようにしたらいいのかを本能的に知っています。例えば、花の種を蒔いたとします。するとその種は水分や栄養分、そして、太陽光線を吸収して芽を出し、葉を形成しつばみを創り、そして花を咲かせます。たった一粒の種から花が咲くのです。これは人



間がその種に花の一生を教えたのではなく、その種に存在する先天的知能が自分の置かれた環境のもとに自然の法則に従ってそうさせたのです。

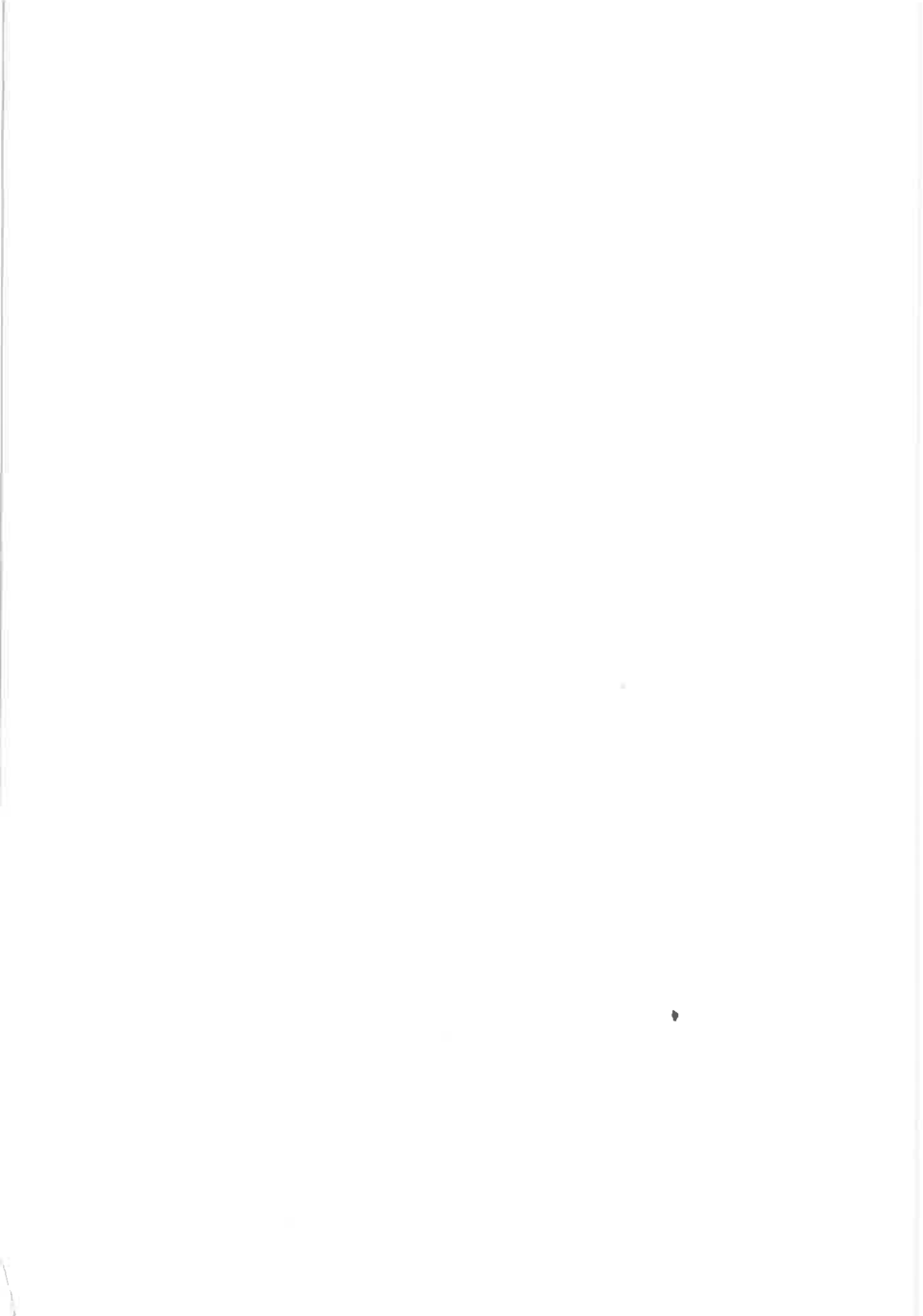
人間ですと、摂った食物を消化吸収して成長させてゆくことも、手足を曲げたし伸ばしたりする事も、心臓を動かすことも、その他体に関する全ての事を知っています。ですから当然あなたの病気を治したり怪我を治すことも知っているのです。

もしあなたがナイフで指を切って「アッ!! 早く血を止めないと」と思って薬やテープを用意している間にも、先天的

知能はすでにあなたの体のどこに異常が起こったのかを感知しており、あなたがその傷を「どうかかしないと!!」と思うより前に一刻も早く本来の姿にもどす（再組織化）為に、出血を止め傷を塞ごうと一生懸命努力を始めているのです。

このように、私達の体には先天的知能が備わっており、病気を治す、傷を治すという行為も先天的知能にとっては当たり前の行為なのです。本来『自然治癒力』は先天的知能の働き的一部分であり、いい替えれば、今あなたを生かしている力こそ『自然治癒力』であり、先天的知能であるわけです。しかしながら、日常『自然治癒力』という言葉はただ単に病気や怪我を治すことに対してのみ使われており、非常に狭い範囲でしかとらえられていません。

普段口にして『自然治癒力』というものが、皆さんが考えておられる以上にすばらしいものであるということが解っていただけたでしょうか。



カイロプラクティックとは

体には自分自身をなおす為の自然治癒力、つまり先天的知能が備わっているという事は、これまでにさんざん述べてきましたのでお解りいただけだと思います。

ではなぜ病気になるのでしょうか。「本当に人間の体に自然治癒力なるものが備わっているのならば、放っておいても勝手に治るはずなのに……」という単純な疑問が起こってきます。全くその通りで、この最も基本的な疑問に真正面から真剣に取り組んでいるのがカイロプラクティックなのです。

それでは「カイロプラクティックとは一体何なのか」「何をするのか」について述べてゆきたいと思えます。

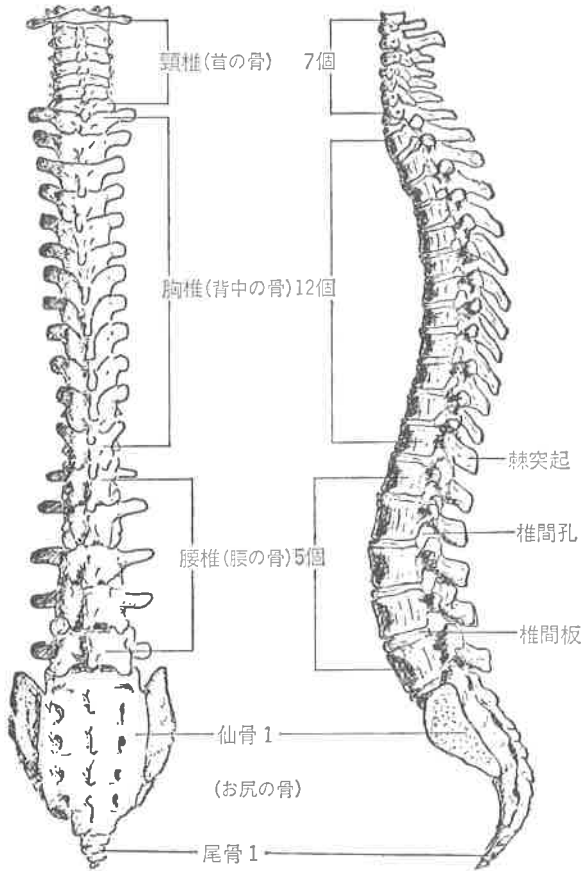
背骨と神経

カイロプラクティックは、背骨と神経との関係を重要視します。そこでまず初めに、人
体における背骨と神経の果たす役割から入ってゆきたいと思ひます。

背骨について

私達の背中には背骨があります。この背骨のことを専門的には『脊柱』と呼びます。この
脊柱は一本の真つすぐな骨ではなく『椎骨』という背骨を構成する一個一個の骨が二十六
個（大人の場合）積み重なって出来ており、椎骨と椎骨の間にはクッションの役目をする
『椎間板』というものが挟まっています（I図）。これをハンバーガーに例えると、パンが
椎骨で、肉や野菜が椎間板にあたるわけです。この椎間板のお陰で体に加わる衝撃が吸収

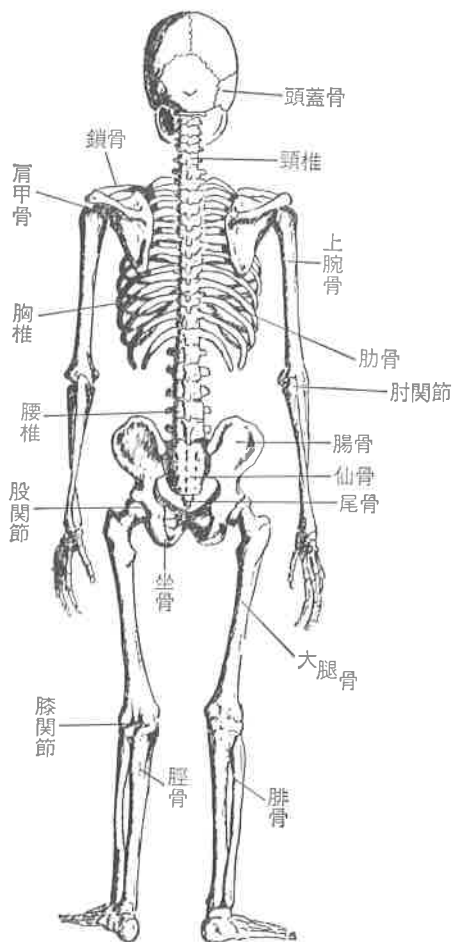
背骨のしくみ(I)



(後方からみた脊柱)

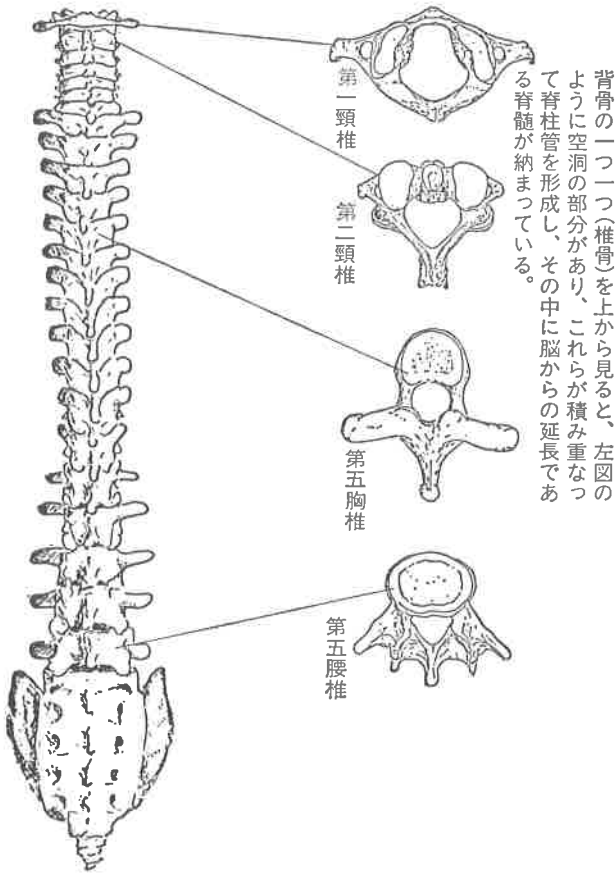
(左側面からみた脊柱)

背骨のしくみ(II)



人体を構成する約200個の骨
(後方からみたところ)

背骨のしくみ(Ⅲ)



され、私達の体は飛んだり、跳ねたり、ひねったり、そらしたりが自由に出来るのです。

この脊柱はあなたの体のすべての骨のための土台を成すもので、この脊柱に肋骨と上腕骨が連結して上部は頭を支えています。そして脊柱の下部は骨盤によって支えられ、そこに二本の大腿骨（足）が連結しています（Ⅱ図）。背骨はあなたの体の骨組みを成すもので、背骨を含め人体を構成する約二百個の骨は靱帯・筋肉によって連結、保護、補強されています（但し、二十三個から成る頭の骨は縫合によって連結されている）。そして、心臓、肺、胃、肝臓などの臓器は背骨、肋骨、骨盤、そして人体を包む筋肉で保護されています。

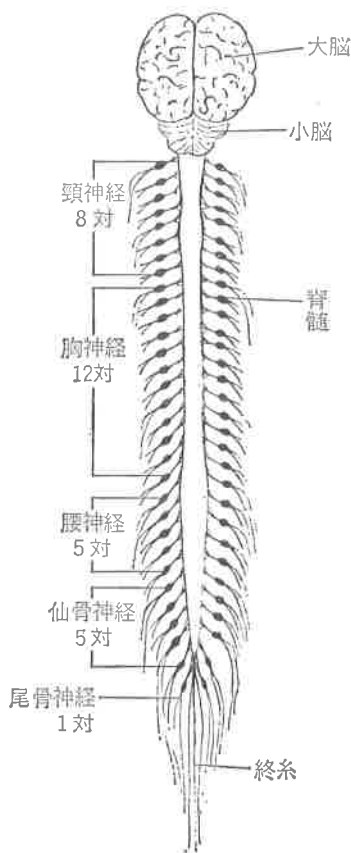
脊柱を構成する二十六個の椎骨は、上から頸椎（首の骨・七個）と胸椎（背中の骨・十二個）と腰椎（腰の骨・五個）と仙骨と尾骨（お尻の骨・二個）と呼ばれ、それぞれの椎骨はⅢ図のような特徴のある形をしています。そしてその椎骨には空洞の部分があり、脊柱管を形成しています。この脊柱管という空洞に脳からの延長である脊髄がスッポリと入ってお尻の方へと伸びているのです。また椎骨と椎骨の間に出来たすき間（椎間孔）からは脊髄から枝分かれするように脊髄神経・交感神経及び副交感神経（自律神経）が出て来て各器官、筋肉、関節その他体の各部分に分布して脳からのメッセージを伝達しています。

神経について

私達人間を含む脊椎動物には必ず神経が存在します。神経には中枢神経と末梢神経があ

脊椎はこれ等神経を外部からの有害な衝撃から保護しているのです。



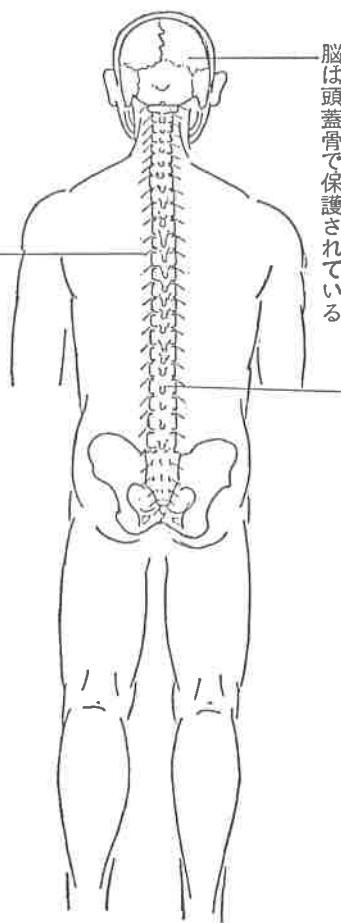


※脳神経12対・自律神経は省略します

後方から見た脳・脊髓・脊髓神経

り、脳と脊髓を『中枢神経』と呼び、脳から分岐した脳神経（十二対）・脊髓から分岐した脊髄神経（三十一対）・自律神経（交感及び副交感神経）を『末梢神経』と呼んでいます。

中枢神経である脳は、生命維持にあたり、体内における全ての組織・器官の最高中枢部です。そしてそれに続く長さ四十一〜四十七センチ、太さ約一センチの脊髓は、大脳と小脳と末梢神経をつなぐ知覚・運動神経線維の集まった重要な伝導路となっています。つま



脳は頭蓋骨で保護されている

背骨は背骨で保護されている

背骨から出るムカデの足のようなものが脊髄神経

り知覚神経は身体各部で受けた刺激を脳へ伝達するもので、これに対して運動神経は脳からの命令を各細胞（器官・内臓）へ伝達します。脳と脊髄はそれぞれ重要なものですから、脳は頭蓋骨に、そして脊髄は背骨に保護されています。

末梢神経である十二対の脳神経は、頭部・顔面（目・鼻・耳などの器官）・首の筋肉・心

臓・気管支・肺・食道・肝臓・腸などの内臓諸器官に分布しています。

脊髄神経（三十一対）には以下のものがあります。

○頸椎から出る頸神経（八対）……首と両腕を支配。

○胸椎から出る胸神経（十二対）……胸部を支配。

○腰椎から出る腰神経（五対）……腹部・腰部・両足を支配。

○仙骨から出る仙骨神経（五対）

○尾骨から出る尾骨神経（一对）

……骨盤内の器官と臀部でんぶの筋肉を支配。

自律神経である交感及び副交感神経は、目・涙腺・耳下腺・顎下腺・舌下腺・頭部及び頸部の血管・心臓・胃・肝臓・脾臓・腎臓・大腸・小腸・子宮・膀胱などの各内臓・器官・血管・腺・皮膚などへ分布しています。

交感神経は、精神的、肉体的ストレスが生じた時や、身体に危険が迫った時に機能します。副交感神経は内臓や器官にたえず働きかけ、それ等が安定して機能するように努めています。そしてこの自律神経の中樞は、脳内にある視床下部にあります。

以上のように「脳」は生命維持のための中枢がある所で、「神経」は体内・体外で得た刺激（情報）を脳へ運ぶ伝導路なのです。また、脳からのメッセージ（情報）を全身の各組織細胞・器官へ伝える伝導路でもあります。

全身の『コントロールセンター（司令室）』である脳に伝達された刺激（情報）は脳内で分析され、その刺激に反応を示します。この反応が一つの命令となって脳↓脳幹↓脊髄↓脊髄神経あるいは交感・副交感神経へ、というように全身をはりめぐらしている神経を通して生体内の秩序を保っているのです。また、私達が痛みを感じたり、手や足を動かしたり、喜怒哀楽を示すのはこの神経があるからなのです。よく言うでしょう「痛みがあるのは、生きている証拠」だと。

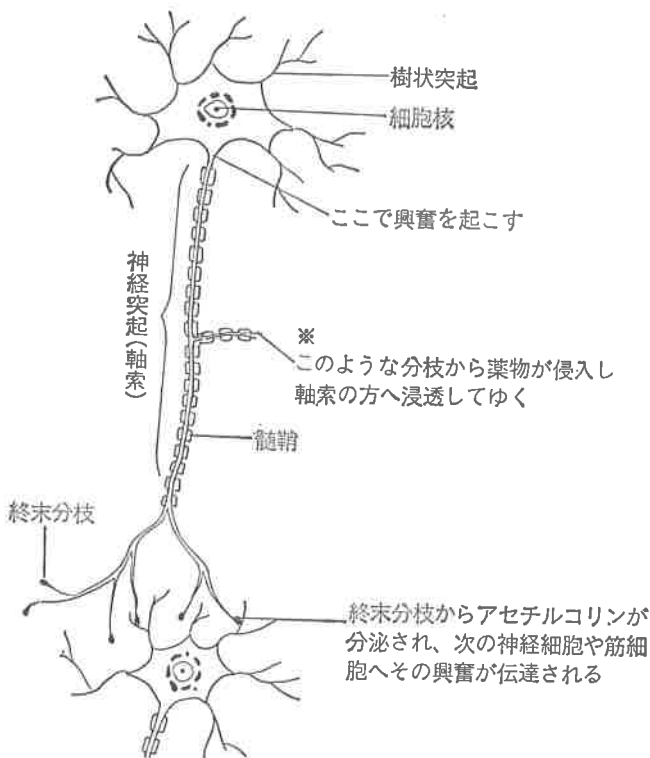
「先天的知能とホメオスタシスの違い」のところでも述べましたように、医学は脳あるいは器官が機能している状態から人体をながめています。そしてこの人体を機能させている中枢は脳にあり、脳からのメッセージは神経を通して送られているというものです。そして、このメッセージは医学的には電気的・化学的なもので説明されています。

☆化学的な説明では……（次頁の図参照）

神経は神経細胞が連結して構成されたもので、この神経細胞には複数の「樹状突起」と一本の「神経突起（軸索）」という二種類の突起があって、外部からの刺激は樹状突起の先端から神経細胞に入り、この神経細胞に入った刺激は神経突起を通してその興奮を他の神経細胞や筋細胞（器官の細胞）へ伝達されます。そして、これらの神経細胞は直接次の神経細胞へ伝達されるのではなく、神経突起の先端の終末分枝と次に伝達される神経細胞の樹状突起の間に出来たわずかなすき間をもって化学物質（例えば、アセチルコリン）でその伝達がなされている、というものです。

☆電気的な説明では……

興奮を伝達する神経突起は「髓鞘」という電気的絶縁の役目をしている被膜でおおわれており（この軸索と髓鞘を合わせて「神経線維」と呼んでいる）、この髓鞘は一〜三ミリの規則的間隔をおきながら終末分枝の手前まで伸びています。そしてこの髓鞘にはくびれた部分



があり、この部分の興奮によって起こる電気的振動波は、次のくびれた部分に電流回路を作り、そこに活動電位を発生させて次ぎ次ぎにくびれの部分に活動電位を起こしながら末端まで伝えられ、それが神経突起の末端まで達すると、そこからアセチルコリンが分泌されるという訳です。そして神経の刺激の伝導

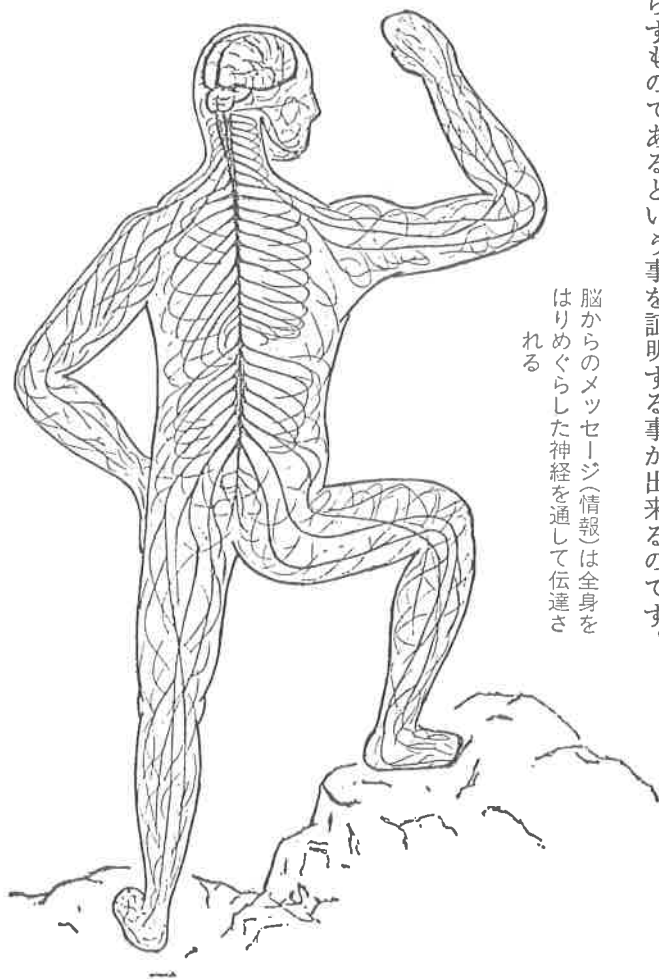
は神経線維を秒速約一〇〇メートルで伝わる電氣的振動波で生理学ではこの振動波を「活動電位」とか「インパルス」と呼んでいます。ここまでの事を頭に入れて一つの例を挙げてみましょう。あなたがすごく熱い湯に手を触れてしまった時、まずあなたの手の表面にある温覚（ルフィニー小体）が刺激を受け、その刺激は知覚神経（求心性神経）を通して脊髓に伝達されます。脊髓にある脊髓反射中枢で制御されたその刺激に対する応答（メッセージ）は、即、運動神経（遠心性神経）を通して手の筋肉に伝達され、そこであなたは熱い湯から手を引く事になります。そして、その熱さは脊髓内の知覚神経を通して脳（頭頂葉の感覚皮質）に伝達され、その湯がどれほど熱いかを感じるわけです。この様に私達のしぐさの一つ一つがすべて私達の体に存在する神経を通して行われているのです。医学的に背骨と神経について、特に神経伝達とその方法（化学的・電氣的）を述べてみました。

これをカイロプラクティックから見た場合「脳からの体に関するすべてのメッセージは、脊柱管（背骨の中）に納まっている脊髓と、それと交通する神経を通して送られており、人間を構成する筋肉も血管も腺も内臓も器官も全て先天的知能によって支配され、それ等は神経を通して調整・維持されている」といいます。神経を電線に例えると、電線が

発電所からの電気の流れる道だとすれば、人間の神経は脳からの神経エネルギーの流れる道にあたります。ところがこの両者には大きな違いがあります。それは電線の中を流れる電気というエネルギーはただ単に電気製品を始動させるのみのエネルギー（力）であり、このエネルギーにはその電気製品をどのように作動させなさいというようなメッセージは含まれていません。一方神経の中を流れる脳からの神経エネルギー（力）は電気エネルギーと違って体の調和をもたらすための情報であり、各細胞をその情報のもとに活動（機能）させるためのエネルギー（力）なのです。この神経エネルギーのことをカイロプラクティックでは『メンタル・インパルス（Mental Impulse）』とか、先天的知能で創られる力なので『イネイト・フォース（Innate Force）』と呼んでいます。メンタル・インパルスの「メンタル」とは「心の・精神の・知的な・心で行なう」といった意味があり、日本語に訳すと「知的エネルギー」とでもいえるでしょうか。このメンタル・インパルスあるいはイネイト・フォースは医学でいうインパルスとは全く別のものであり、これを顕微鏡で確認しようと思ってもその実体は解りません。先天的知能が目で見えないように、そこで創られる力も目には見えないのです。しかしこの知的エネルギーはカイロプラクティックの

アジャストメントによって、あなたの体を通してそのエネルギーが確かに体の調和をもたらすものであるという事を証明する事が出来るのです。

脳からのメッセージ(情報)は全身を
はりめぐらした神経を通して伝達さ
れる

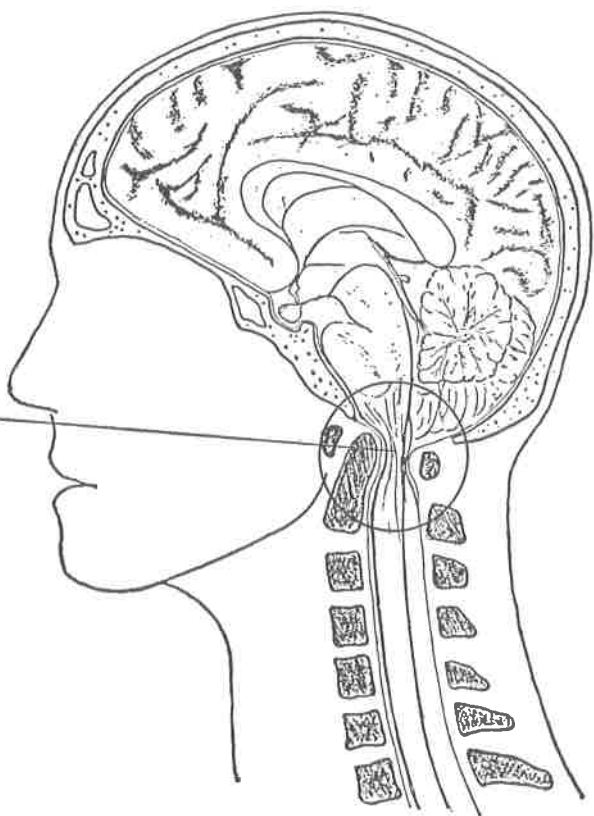


病氣の原因

脳（先天的知能）からの情報（メンタル・インパルス）は脊髓とそれから分枝した脊髄神経を通して全身のすべての部分に伝達されています。そしてこの脊髄及び脊髄神経（椎間孔から出る）はすでに「背骨について」で述べましたように椎骨によって保護されています。しかしこの保護も様々な形で危険にさらされます。例えば、階段から転んで、鉄棒から落下して……など。その衝撃により、この神経を保護しているたった一個の椎骨が脊柱より変位（ズレ）して一つの小さな神経をほんのチョッと圧迫しますと、あなたはたちまち体に不調を訴えることになります。このように背骨が変位して神経を圧迫し、脳（先天的知能）からのメンタル・インパルス（イネイト・フォース）の伝達を妨害している状態をカイロプラクティックでは『サブラクセイション』と呼んでいます。

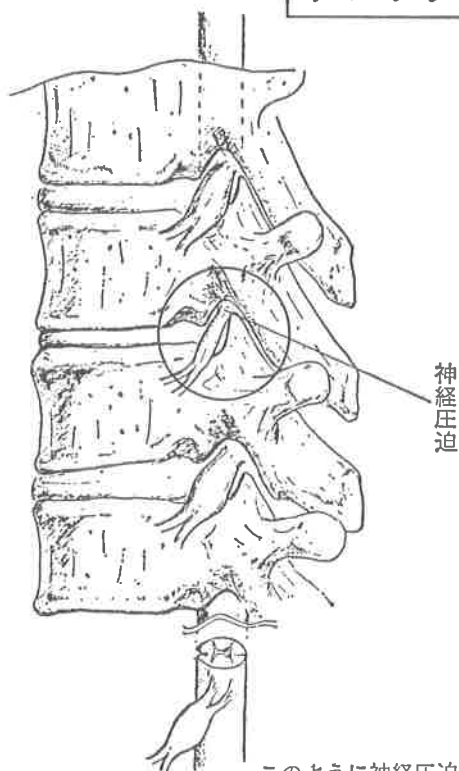
先天的知能は、体を構成する全ての細胞がどのような状態にあるかを常に知っており、その時の情況に合わせて適切なメンタル・インパルス（情報）を送っています。しかしサブラクセーション（神経圧迫）が起こりますとその情報が変わってしまい、同じ内容でも無秩序な情報に変化したものが伝達される事になり、細胞はその誤まった情報のもとに作用して体の調和を乱してしまふのです。その結果ここに「症状（病気）」が生まれるのです。これを私達の身近なものであるテレビに例えてみますと（但しこのテレビ自体には故障のないものとします）、テレビは電気というエネルギー（力）で始動し、そのアンテナで各テレビ局の電波をキャッチして電気信号に変え、その情報をブラウン管に映像化します。ここでいうテレビ局は人間では先天的知能のある脳であり、このテレビ局から発せられる電波の情報が人体で言えば神経の中を通る先天的知能からの情報（メンタル・インパルス＝インイト・フォース）と思つて下さい。ところがそこにテレビ局とそのアンテナをさえぎるような格好で大きなビル（障害物）が建つたとしますと、テレビ局からの電波は妨害され、今まで鮮明に写っていたテレビはその妨害された電波をそのまま受け入れて、ブラウン管に今までとは違った不鮮明な映像を提供（表現）してしまふのです。これが人間で言えば

神経圧迫

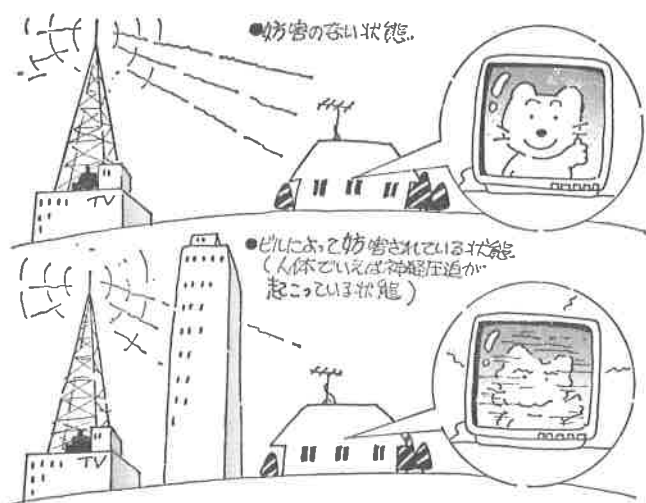


※この図は理解し易いように
誇張して描いてあります

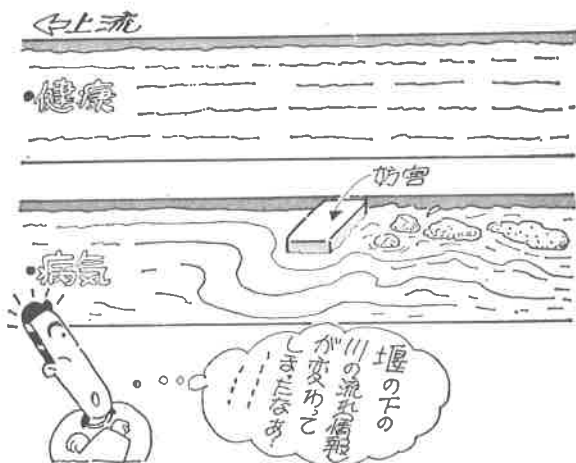
サブラクセイション



このように神経圧迫が起こると先天的知能からの適切な情報(メッセージ)が末梢まで十分に伝達されなくなり、そこで症状(病気)が発生します



「具合の悪い」状態となるのです。そしてその電波妨害の度合により、その写し出される映像（情報）の鮮明度が変わるように、人間においてもその神経圧迫（イネイト・フォースの伝達の妨害）の度合と神経圧迫の場所によってその人が訴える症状も変わってくるのです。しかしながら映像が鮮明に写らないにもかかわらず、テレビという物体は与えられた電波を最大限に写し出しているのです。人体の場合ですと、神経圧迫が起って具合が悪いにもかかわらず、先天的知能はあくまでも肉体の置かれた環境のもとで最大限に肉体（物体）を生かそうと努力し



ています。

もう一つ川の流れを例にとってみます。

上の図を見て下さい。ここに一本の川が流れています。ある日人間が途中に堰せきを作りました。するとこの川の流れは妨害されて、今までとは様子が変わってしまいました。

これまで流れに隠れて見えなかった砂地や岩場が現われてきたのです。つまり堰から下は川の様子（情報）が変わってしまいました。それでも上流から堰までの流れはこれまでと同じであり、堰を界にしていくら流れが変わろうとも下流は上流からの流れをこれまでと同じ様に素直に受け入れ

ているのです。そして堰によって現われた砂地・岩場は流れが変化した（秩序が乱れた）ことを人間に証明しているのです。人体の場合ですと、この堰にあたるのが「椎骨の変位（ズレ）による神経圧迫」であり、川の流れが「先天的知能からのメンタル・インパルス（調和の為の情報）」であり、砂地・岩場が「秩序の乱れた情報を受け入れてしまった細胞」にあたります。そしてこの砂地・岩場の部分が肉体でいえば具合の悪いところになるわけです。

このようにカイロプラクティックでは、病氣の原因は「神経圧迫（サブラクセイション）」と考え、病氣は神経圧迫の結果であると考えています。そして人体を支配している先天的知能と肉体（物質）との間に何が起こったのか、つまり先天的知能の働きを妨害しているものは何なのかを問題にし、その妨害（原因）を取り除くのです。

一方医学では、生体の恒常性（ホメオスタシス）が保たれなくなった時疾病が発生すると考え、この病氣を治す為に治療を行ないます。

神経圧迫を取り除く

カイロプラクティックは病氣の原因である神経圧迫（サブラクセイション）を取り除くのです。

「病氣の原因」のところ述べてきましたように、背骨（椎骨）が変位（ズレ）して神経を圧迫しますと、脳からの治癒力（先天的知能からのメンタル・インパルスの伝達）は妨害されて様々な症状が起こってきます。そして治癒力の妨害により本来放っておいても自然に治る筈の病氣も治らなくなってくるのです。

カイロプラクティックはこの自然治癒力を妨害している神経圧迫を手によって取り除き、本来人間に備わっている先天的知能（カイロプラクティック的には先天的治癒能力、医学的には自然治癒能力）に病氣の診断・治療をさせようとするものなのです。



●神経圧迫のない状態



●神経圧迫のある状態

を妨害している背骨の変位（ズレ）による神経圧迫を取り除く事なのです。「病気の原因」で述べた例を使いますと、電波妨害となっていて大きなビルを取り除く事によりテレビの不鮮明な映像は自ら消えて元の鮮明な映像の状態に戻るのです（まあ現実にはテレビの写り

人間に自然治癒力というものが備わっているのであれば、人間が病気を治療すること自体が自然治癒力を無視していることになり、また自然の法則をも無視することになるのです。なぜなら「先天的知能と自然治癒力」でも述べましたように、私達を生かしている力そのものが自然治癒力であり、人間が人間を助けようとする以前にすでにこの自然治癒力に助けられているからです。ですから病気であっても治癒力は低下する事はなく、死に至るまで完全に働いているのです。

そこで重要となるのは病気の原因である治癒力

が悪いからといってビルを取り壊すという事はありませんが……。川の流れの方は、流れを妨害しているもの（堰）を取り除くとその流れはおのずと元の自然な流れの状態に戻る訳です。

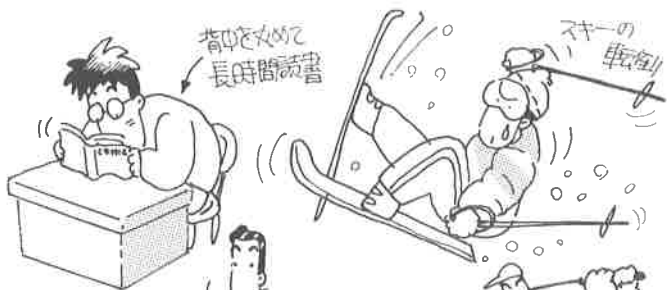
人間の背骨の変位（ズレ）による神経圧迫も、これを取り除く（手によって）ことにより脳からのメンタル・インパルス（治療力、イネイト・フォース、知的エネルギー）の伝達がスムーズにゆくようになり、自然の法則によつて先天的知能はあなたのいかなる病名・症状に関係なく診断・治療し、その結果様々な症状が治癒してゆくのです。なぜなら、先天的知能はすべての器官・組織・細胞とつながっているからです。

カイロプラクティックでは、この神経圧迫を取り除く、つまり変位（ズレ）した椎骨を元の正常な状態に戻す時の動作のことを『アジャストメント』と呼んでいます。

神経圧迫はどのようにして起こるか

あなたは毎日色々な人と会いますね。その中には、猫背の人、体が傾いている人、首が左右いずれかに傾いている人、肩の高さの違う人、腹の出ている人、腰が曲がっている人、耳の高さの違う人……に気付く筈です。これらの多くの人は、体のどこかに不調を訴える人が殆どです。そしてその不調と背骨の変位（ズレ）とは密接な関係があるので

背骨が変位する原因として身近な例を挙げると、スキーやスケートによる転倒、階段や鉄棒からの落下、過労、睡眠不足、打撲、デスクワーク、背中を丸めての長時間の読書、重いものをいつも同じ側の腕に持つ、ショルダーバッグをいつも同じ側の肩にかける、体



がしずむようなベッドや蒲団で休む、長時間のドライブ、車の衝突や追突、スポーツによる損傷、ゴルフや野球など同一方向への体のひねり、出産、化学物質の摂り過ぎ、栄養のアンバランス、精神的ストレスの蓄積、歯の咬み合わせが悪い、踵の高いくつをはく、メガネやコンタクトレンズの不適合、ピアスやガードルによる締めつけ、高過ぎる枕の使用、背のびして物を取る、人間を取りまく自然環境の変化……など。挙げればきりが無い程です。このような事が原因で直接背骨にズレを生じさせたり、また持続的圧迫などで神経を介して背骨をズラしたりして神経圧迫を作り出しているのです。

先天的知能は、あなたの体に異常事態が起こりますとすぐに正常な状態に戻そうとします、たとえ背骨が変位（ズレ）していても体の適応限界を超えなければ十分な休養と栄養をとる事によって正常な状態を取り戻す為に努力します。ですから「十分に睡眠をとったら」「二〜三日様子をみていたら、自分で治った」ということになるのです。そしてこの自分で治るといふ事が一番自然なわけです。ところが、いくら休養をとっても、運動をしても、食事療法をしても、高価な栄養剤を摂っても、また具合の悪い所を何年も治療しているのに一向に良くなる場合がありません。それは、体が適応の限界を超えてしまった

のです。こういう時こそカイロプラクティックの手助けが必要なのです。

神経圧迫といっても、レントゲン写真で背骨の変位を知ることが出来ますが、その写っている変位した背骨のすべてが神経を圧迫している訳ではありません。その中のたった一個の背骨の変位によるわずかな神経圧迫が原因となって、あなたの肉体のバランスを崩させ病気へと進行させるのです。

一番つらいところだけ良くなればいいのか

カイロプラクティックを受けられる理由は「一番つらい」ところから早く解放されたいというのが殆どだと思います。

「つらい」といってもその訴えられる症状は様々で、ある人にとってはそれが痛みであり、又ある人にとっては冷え、しびれ、麻痺、皮膚病、血圧が高い、視力低下、せきが出る、耳鳴り、凝り、便秘……など。そしてその部位もつらさの度合も皆違うのです。ところでその「一番つらい」と訴えられる状態さえ取り除けば、体は本来に健康といえるのでしょうか？ 一番苦しんでいる「つらい」部分が「一番悪い」といいきれませんか。例えばあなたが一番つらいと訴えられるのが「腰痛」であったとします。勿論あなたはその痛みから解放されたいと願うでしょう。しかしあなたの体のその他の症状（例えば、朝

起きる時頭痛がする、水虫がある、肩が重い、吹き出物が多い、便秘など）は放っておいてもいいのでしょうか。今一番つらいから一番悪いと思っておられるのはあなたの教育された脳による判定でしかないので。本当に「一番悪い」の判定を下すのはあなたでも私の教育された脳でもなく、あなたの先天的知能がなすことなのです。

カイロプラクティックにとっては、あなたが訴えられる一番つらいところが問題なのではなく、原因である神経圧迫だけが問題なのです。そして神経圧迫を取り除かれると、あなたが望む望まないに関係なく先天的知能があなたのすべての症状をその判断のもとに治療してゆくのです。ですからあなたがいわれる一番つらいところから必ず治るとはいえないわけです。そしてあなたが思っておられる一番つらいところが体にとって本当に一番悪いとも言えないのです。

いつ治りますか？

「何回通ったら良くなりますか？」「すぐ良くなりますか？」「いつ頃良くなるでしょうか？」という質問をよく受けます。

「ひざ痛」を例にとってみますと、このひざ痛にしてもいろんなケースがあって、これまでにひざの水（滑液）を何回も抜いた方、ホルモン剤の注射を受けていた方、ひざの切開手術を受けた方、痛かったけれど特に何もしていない方など様々です。そしてその膝に対して何らかの処置をしたか、しないかで治り方も治癒期間も当然違ってきます。又、現在それ以外の病気に対して化学物質（薬）を服用しているかいないか、またバランスのとれた食事をしているかいないか、その他生活習慣（たばこ、酒の飲み過ぎ、座り方、など）はどうか、人生観（自分で治そうという意志があるかないか）によってもその治癒期間は変わっ

てきます。

ところで、前にも述べましたがカイロプラクティックは体全体を考えています。ですからこのひざ痛の問題だけを取り上げるのではないのです。なぜなら、サブラクセイションを取り除きますと先天的知能（自然治癒力）は体全体の調和の為に働きかけるからです。あなたにとっては「ひざ」の問題が一番重要なのですが、体は各部分が互いに直結し関連し合いながら調和（バランス）を保っているのですから、特にひざだけということではなく、他の機能が低下している部分をも治療してゆきます。肝臓が悪い人の場合ですと、その肝臓の部分だけが問題なのではなく、目や手の平、また背骨にも異常が現われますし、気分（怒りっぽくなる）にも現われることでもお解りいただけると思います。

そこで「何回通ったら良くなるのか？」というのは、あなたの目的が「ひざの痛みを取る事のみ」であればその部分の痛みが取れた時があなたにとっては良くなった時でしょうし、その痛みが取れるまでに要した通院回数がその答えになります。これに対してあなたの目的が「健康になること」でしたら、ただ単にひざ痛が取れるばかりでなく、もしこれまで薬物に頼っていた諸症状が薬物に頼らなくても良くなってゆき（例えば、冷えがなくな

る・胃の調子が良くなる・血圧が下がるなど）自分の人生観、また自然に対する考え方も健康的・建設的になった、というような変化が起こってきた時がその答えとなります。

このように「病気の治療」を目的とした場合はひざ・肩・腰などを部分的にとらえる事で良いのですが、「健康」を目的とした場合は体全体を考える事になり、この「何回通ったら良くなるのか？」という質問は、あなたの目的によっても違ってきますので、あなた自身に問うしかないようです。

「健康になる」という事は、アジャスト後あなたが訴えていた症状がすぐに取れたとしても「これで健康になった」といえるのではなく、その他の様々な症状もとれて、心身共に健康的になった時、始めて真の健康を取り戻したという事が出来ると思えます。それまでには当然時間がかかるのです。ちょうど種から急に花が咲かないように。

カイロプラクティックを受けたらもう安心か

カイロプラクティックに限らず、どんな治療法を受けていてもその期間中に転んだり、ひねったり、ぶっついたり、飲みすぎたり、食べすぎたり、睡眠不足であったり、過労であったりする事により具合が悪くなることは当然考えられます。その中でも転んだり、ぶっついたりという事は生活してゆく上で避けられない事かも知れませんが、その他の避けられるものは出来るだけ避けて欲しいものです。なぜならこれらは体にとって良い事ではなく、又それによってせっかくの順調な回復を妨害しかねないからです。

カイロプラクティックにおいては、それにより神経圧迫が起こってさえいなければ問題は無いのですが、もし神経圧迫が起こってしまったら、やはりアジャストメントの必要性が生じて来ます。

カイロプラクティックの適応症

「カイロプラクティックは腰痛や肩凝りに効果があるんですね」という事をよく聞きます。しかし、カイロプラクティックは腰痛や肩凝りだけを治す為の治療でも、また症状を取り除いたり病気を治す為の治療法でもありません。

これまで何度も説明してきましたが、椎骨のズレによる神経圧迫（サブラクセイション）が起こりますと、先天的知能からの治療力（エネルギー）の伝達が妨害されて様々な症状を訴えることとなります。神経圧迫が起こるという事は、体全体に悪影響を与えるものですから「カイロプラクティックの適応症」を挙げることは無理で、「カイロプラクティックは〇〇病に良い」という風に限定できるものではありません。なぜなら、先天的知能はこの体を機能させている源であり、それは全身の細胞につながっているからです。

「先天的知能と自然治癒力」(五十九ページ)のところを思い出して下さい。自然治癒力というのは、皆さんが考えておられるように部分的に働くものではなく、体全体に働きかけているのです。腰や肩・首・背中・胃・肝臓……だけに限定して働きかけているのではないのです。その証拠に、頭を怪我しても、おなかが痛くても、足の指をくじいてもちゃんと良くなってゆくでしょう。

治療医学は、人間が人間の教育された脳(人間の知識)で病気を治そうとするものですからどうしても限界が生じてきます。ですからある症状・病気に対する治療法が確立されていない場合、それは「難病」「不治の病」「奇病」「原因不明」として表現されます。これに対してカイロプラクティックというのは、今現在あなたを生かしている先天的知能にあなたの体の診断・治療をさせるわけですから、あなたの具合の悪い所がいくつあるかと、あらゆる症状や、やっかいな病名がどれだけあろうと(例えば血液の病気・細菌性の病気・薬物中毒・熱性の病気・精神的病気・神経性の病気であっても)も、全てに有効であるという事が出来ず。なぜなら自然治癒力は常に全身に働きかけているからです。

物質の限界

先天的知能はあなたの生死にかかわるような病気でさえ診断・治療します。しかしながらあまりにも病状が進行していたり、その病状の進行速度に自然治癒力が追いつかない場合、つまり物質（細胞・組織・器官）に限界が生じた時は完全に有効な働きが出来ない場合もあります。例えばひざの関節の損傷がひどくて人工関節に頼らざるを得ないという事もあるでしょう。

この様にカイロプラクティックは、すべての病気に有効といえども、それによってすべての病気が自然治癒するものではありません。物質の限界に至ったものは当然外科的処置が必要となってくることはいうまでもありません。

しかしながらサブラクセイションのない状態での術後の予後は良好で、仮に「要手術」の宣告をされたにもかかわらず、先天的知能の判断の結果、物質の限界に至っていない人は、自然治癒に導かれるという事態も起こってきます。

いろいろなテクニク（調整方法）がある

皆さんの中には「カイロプラクティック」とは「背骨をボキボキ矯正するものだ」と思っておられる方が多いと思います。しかしカイロプラクティックにはいくつかのテクニクがあり、その使用されるテクニクはその先生の考え方・理論（サブラクセイション＝神経圧迫に対する考え方）によって異なっています。

そのテクニクには、

- 背骨全体をアジャストの対象とするもの。
- 頸椎（首の骨）をアジャストの対象とするもの。
- 骨盤をアジャストの対象とするもの。
- 仙骨のみをアジャストの対象とするもの。

○頭蓋骨をアジャストの対象とするもの。

など、その対象は様々です。そしてその中でも背骨全体をアジャストの対象とされる先生方が圧倒的なようです。以上の様にカイロプラクティックには色々な調整法があります。

ですからカイロプラクティックを初めて受けられる方は、まず先生にその方法と目的をよく尋ねられ、納得された上で受けられることをおすすめします。

カイロプラクティックと医療の違い

人間を含め、生物がある行動を起こす背景には必ずその行動を起こす為の目的があります。そこでここではカイロプラクティックと医療の目的の違いを述べたいと思います。

医療の目的

- 病気を治すこと。
- 症状をとること。
- 楽にしてあげること。
- 死を防ぎ長生きさせること。

医師は学んで得た人体に関する豊富な知識や経験によって患者が訴える症状を細かく分

析・診断し病名を付け治療を行ないます。ですから病氣は担当の先生が持つておられる知識の量（後天的知能）によってすべて判断され、その中からあなたの病氣に対して一番良いと思われる治療法（例えば、薬物・手術・物理的・食事・休養など）が決定されます。医療は日進月歩で、人体の機構に関する新発見・遺伝子の組み替え・臓器移植の開発やそれに伴う医療技術及び機器の開発・新薬の開発という具合に留まることを知りません。これは人間の進化した脳（教育された脳）によってこそもたらされたもので、他の生き物の世界ではみられない事です。

カイロプラクティックの目的

○神経圧迫を取り除くことのみ。

カイロプラクターは、あなたが訴えられる症状（あなたが悪いと思っているところ）や病名（病院で付けられた、または自分でそうではないかと付けられた）を参考までに聞くことはありますが、それ自体は取り扱いません。カイロプラクターにとっては、その症状及び病名よりも「病氣の原因である神経圧迫がどこに起こっているか」の方がはるかに重要な問題

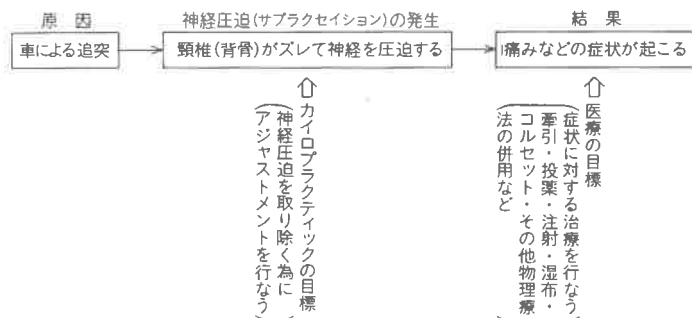
だからです。そしてその神経圧迫が脊柱（背骨）のどこで起こっているかを調べ、神経圧迫があった場合はそれをアジャストメントによって取り除きます。このアジャストメントがカイロプラクティックにおける治療にあたります。カイロプラクティックでの教育された脳の適用範囲は、神経圧迫をみつけ出す時の検査及び神経圧迫がみつかった時のアジャストメントまでです。そして神経圧迫を取り除いた後は、人体に備わっている脳からの先天的知能（自然治癒力）にあなたの病気の診断・治療をまかせます。ですから医療のよりに後天的知能（教育された脳）によって病気を治したり、延命をはかったり、楽にしてあげるものではなく、あなたの病気を治すのも、何年生きるのかも全てあなたの先天的知能に任せ、それによってあなたの体をより良い状態にもってゆかせるのです。

ではここに一つの具体的例を取りあげて、医療とカイロプラクティックの処置の違いを説明したいと思います。

(ある患者さんの訴え)

○月△日 車を運転していて信号にさしかかった時、信号が赤に変わったので信号待ちをしていました。その後方の車に追突されましたが、特に外傷もなく車にへこみが出来た程度だったので、不幸中の幸いと思っていたのです。ところが数日後急に頭痛・首痛・吐き気・肩凝り・手のしびれ・目の障害・胃の障害などの症状が起こってききました。

医療ではここでどのような方法がとられるでしょうか。まず首のレントゲン写真を撮られて頸椎に異常がないかどうかを診断します。そしてもし異常が認められると首の牽引・コルセット着用・電気治療などの処置が首に対して行なわれます。また各症状をとる為に痛み止め・ビタミン剤・目薬・胃薬などを外科・眼科・内科の分野で投与されるでしょう。これは医師にとって患者さんの訴える症状(病気)を治す為の当然の処置であるわけです。



一方カイロプラクティックにおいてはとていまずと、まずあなたの背骨の状態をチェックします(勿論、医師の協力を得てレントゲン写真を持参出来る方には持参していただき、それをカイロプラクティック的に診断します)。殆どの場合、首に何らかの異常が認められますので次にそのメジャー(すべての病気の原因となり得るところ)をみて、その神経圧迫を取り除きます。そしてその後には自然(先天的知能)に任せます。神経圧迫が取れると症状(結果)は治ってゆくというわけです。

ここで考えていただきたいのは、結果である頭痛・首痛などの症状を引き起こした第一の原因は車の追突であって、これはどうする事も出

来ない過去の出来事なのです。ところが、この後に起こった首の骨の変位による神経圧迫（むち打ち）は依然進行中であって、これが患者さんの訴えられる症状（病気）を作り出している根本原因になっているという事です。ですから、あなたが一刻も早く症状（病気）を治して欲しいと望まれるのであれば病院や治療院へゆかれた方が良いでしょうし、神経圧迫を取って自然に（自分の先天的知能によって）健康を取り戻したいと望まれるのであればカイロプラクティックにゆかれると良いでしょう。選択権は常にあなたにあります。

カイロプラクティックにおける

治療・治療費・患者・治療院（室）

「治療」について……

カイロプラクティックでいう治療とは、医療における治療とは異なりアジャストメントによって神経圧迫（サブラクセイション）を取り除くことをいいます。

「治療費」について……

カイロプラクティックでいう治療費とは、病気（疾病）を診断・治療する為の費用ではなく、サブラクセイションの有無を調べる為の検査料及びサブラクセイションを取り除く（アジャストメント）技術料をいいます。

「患者」について……

カイロプラクティックでいう患者さんとは「健康希望者」とでもなるでしょうか。医療では病気を治す為に来院される方を「患者」さんと呼びますが、カイロプラクティックではこの言葉にあたる適切な呼び方がありません。

なぜなら、医療のようにあなたの病気を取り扱っているのではなく、神経圧迫を取り除くことによってあなたに真の健康を取り戻してもらうのが目的ですから、本来は患者さんという医療用語はふさわしくないのです。

「治療院（治療室）」について……

カイロプラクティックでは、それぞれの名称を「〇〇カイロプラクティック治療院（治療室）」「〇〇カイロプラクティック研究所」「〇〇カイロプラクティック・センター」「〇〇カイロプラクティック・オフィス」と様々な呼び方で表わしています。

本来カイロプラクティックは病気の治療を目的としたものではありませんのでこの「治療」という言葉は使用したくないのですが、皆さんに説明する上で「カイロプラクティッ

クはサブラクセイションをアジャストする」と言うより「カイロプラクティックは神経圧迫を治療する」と言った方が解り易いように、皆さんの一番身近な解り易い言葉として用いているのです。しかし将来カイロプラクティックが皆さんの中で正しく理解され浸透していったなら「治療」という言葉は消え「アジャストメント」で通用するようになるかも知れません。もし、そうなれば、治療院・治療室という表示は必要でなくなる事でしょう。

カイロプラクティックと健康

『健康とは単に身体に病気がないとか、虚弱でないというだけでなく、肉体的にも社会的にも完全に調和のとれた良い状態のことである』とWHOで定義されています。

これをカイロプラクティックでは「サブラクセイション（神経圧迫）のない状態」といいます。なぜなら神経圧迫のない状態というのは先天的知能からのメンタル・インパルス（脳からのメッセージ）が十分に伝達されている状態であり、人体を構成する全細胞も正常に機能しているという事になるからです。また先天的知能は肉体に対して常に建設的な情報も提供しています。ですから、カイロプラクティックを受けられた方の中には「体がスツキリして、これまでは何事に対しても消極的だったのが、最近は生きてゆく事が楽しくて何事に対しても積極的に考えたり取り組んだり行動したりするようになりました」と実

感されておられる方も多いのです。また他の人から「あなた最近性格が明るくなったわね」「なんだか人が変わったみたい（良い方に）」などと言われました、という話も良く耳にします。このように神経圧迫が取り除かれるという事は、すべてのことに関して建設的に取り組む姿勢が生まれ、より良い自分を創り出す事になるのです。そしてより良い自分（個人）が集まると、そこにはより良い集団が生まれ、より良い集団が集まると、よりよい国家が、そしてより良い宇宙が生まれるのです。この事は、まさにカイロプラクティックの最終目標なのです。

人の中には、肉体的な欠陥をとりあげて「健康だ」「健康でない」と勝手に決めつけたり、努力もしないで「○○○だから無理だ」「○○○だからしょうがない」とあきらめている人がいます。「なんと消極的な生き方なんだろう、生きているのに十分に自分を発揮させようとしてもしないとは、もったいない事だ」と私は思います。

生活していますと肉体にいつ何が起こるか解りません。ある人は足を失くし、ある人は目を、またある人は内臓の一部を手術によって取り去ったかも知れません。しかし、肉体のある部分が他の人と同じようでないからといって「健康ではない」と思うのは実におか

しなことだと思えます。たとえそうであったとしても、先天的知能が十分に働いている状態というのは、肉体的にどうする事も出来ない部分があったとしても、無いものは無いなりに機能し続けているのです。

皆さんの回りに心当たりはありませんか？

○片腕がなくても一生懸命仕事をしている人。反対に腕があっても何もしたがない人。
○口がきけなくても、いつもニコニコしている人。反対に口がきけても人の悪口や不平不満ばかり言っただけの人。

○足がなくても自分の事は自分でする人。反対に足があっても、面倒くさかって自分でやろうとしない人。

○目が見えなくてもいろんな事に興味を持って感性が豊かな人。反対に目が見えても、すべてが当たり前だといわんばかりに無感動・無関心の人。

○自分の病気を克服しようと努力している人。反対に自分は病気なんだからと何もしない人。

○血圧が高くて、自分の体や仕事をきちんとコントロールして生き生きと生活してい

る人。反対に血圧が高いのに毎晩あびるように酒を飲んだり、不摂生な生活をして
いる人。

○年を取っても常に生きる事に前向きな姿勢（勉強したり、自分の趣味を生かしたり、自分
に出来る事はやるなど）の人。反対に自分は老人なんだからと周囲に甘えて何もしない
人。

○体のどこも悪くないのにブラブラして人に迷惑をかけている人。

など、人は五体満足でさえあれば健康といえるのでしょうか。いったい健康であるとは
どういうことでしょうか。そして何が正常であり、何が異常なのでしょうか。

カイロプラクティックと食生活

私達は毎日食事をして生きています。この世に生まれてまず必然的な行為は食べる（栄養の補給）事でしょう。それは授乳から始まり、離乳食・一般食という風にな変わっていきまます。食べる事によって体はその食物に含まれる栄養素を吸収し、それによって体のいろんな部分を成長・維持（ある時は傷ついた部分を修復する）してゆきます。ですから食事というのは私達にとって大変重要な問題なのです。しかし、食べるという行為も生きていて始めて出来る事であり、また食べるから生きてゆけるというその背景には、常に先天的知能の存在があるのです。先天的知能があつて始めて食物を口にし、咀嚼そしやくし、消化し、それを血に変え、肉に変え、骨に変える事が出来るのです。

一方この先天的知能は、あなたがいくら片寄った食事をしようと、たばこを一日何十本

吸おうと、アルコールや化学物質を浴びるように飲もうと、あなたが肉体に与えた物の中から体に必要なものを最大限に活用して生命維持の為に努めています。ですからそれによって例えば胃潰瘍・肝臓病・高血圧・手足のむくみなどの症状で苦しむ事になったとしても、その原因はあなたが与えたのであって、先天的知能はその与えられた物の中から生かせるものは生かして体を維持しているのですから、死に至らずに済んでいるだけでもこの先天的知能に感謝しないといけないわけです。「原因があつて結果がある」当然の結果なのです。

ところで、このような症状（胃潰瘍・肝臓病・高血圧・手足のむくみなど）を訴えられた場合、カイロプラクターに出来ることは何度も述べましたが神経圧迫を取り除き、あなたの先天的知能により良い状態にもってゆかせる事だけなのです。しかしその後のあなたの生活（片寄った食事や、たばこ・アルコール・化学物質などの問題や、姿勢など生活習慣）が以前と全く変わらないのであれば、せっかく神経圧迫がとれてより良い状態に戻ったとしても、また自分自身で原因を作つてゆくことになり同じ事のくり返しで、中々健康には行き着かないでしょう。もしそこであなたが健康を考え、真の健康を望み、その為に前向きな

姿勢で改善策をとり（食事・たばこ・アルコール・化学物質その他生活習慣などについて）、実行されるのであれば、おのずとその結果はより良い状態として肉体にもたらされることになるでしょう。

結論として言えることは、あなたがいくら片寄った食生活をしようと、たばこやアルコールや化学物質を浴びるようにとろうと、不摂生な生活態度であったとしても、それはあくまでもあなた自身の問題であって、私の口からどうこうしなさいと言うべき問題でもなく、それはカイロプラクティックを受ける以前の個人の健康に対する、自分自身の人生に対する意識の問題だといえます。

あなたが訴えている様々な症状を治療し、健康に導いてゆくのはあなた自身であるという事を常に頭に置いておいて下さい。本来の治療家はあなた自身なのですから。

年を取ると病気は治らないのか

「年を取ると背骨が曲がってもあたり前」「足や腰が痛くなっても仕方がない」「目が悪くなったり、耳が聞こえづらくなるのもしょうがない」「血圧が高いのも年のせい」というようなことをよく聞きます。しかし一体だれがそんな事を決めたのでしょうか。本当にそう言えるのでしょうか。であれば、年を取っても背筋のシャンと伸びた人は、足腰のしっかりした人は、目や耳がいい人は、血圧が正常な人はいったいどうなるのでしょうか。「先天的知能は老化しない」(五十八ページ)のところでも述べましたが、子供の頃も年をとってから傷は治ってゆきます。このこと(出血が止まり、傷口が塞がり、再生する)は、年を取っても病気を治す力は変わらず、生きている間治療力はズーッと働いているということの証明なのです。ただ肉体の限界で、若い時よりは治るのに時間がかかったり、治りにく

い事があったとしても、それが「年だから治らない」ということにはつながりません。現に、私のオフィスに來られた御老人の中にも年だから……とあきらめておられた猫背や白内障が良くなったり、血圧が下がったというような例がいくつもあります。

「年だから……」「……は仕方がない」というのは人間が教育された能（後天的知能）によって勝手に決めた事であり、自然（先天的知能）が決定したことではないのです。

自然界には、人間だけが存在しているわけではありません。他の動物の世界もあれば、植物の世界もあります。そしてそれらは私たちが普段忘れていた事や、気づかないでいた事を教えてくれます。生きている背景には必ず先天的知能の存在があります。このことは「三位一体の生命」（三十二ページ）のところで言いましたが、先天的知能は物質を通してそれを表現するのです。例えばここに樹齡三百年の木があるとします。この木は三百年後の今も生きており、春には他の若い木と共に新芽を出します（その木にふさわしい状態で）。そしてこの事で先天的知能を証明しているのです。人間の場合ですと、例えば年齢が八十歳であっても生きているのは同じであり、怪我をしても、風邪をひいても治ってゆきます。そしてこの事により先天的知能を証明しているのです。この木はその与えられた

環境の中で、人はその置かれた環境の中で、自らが持っている先天的知能によって、一番良い状態にもってゆき、維持されています。ですから本当に治らないのかどうかは、本来あなたの先天的知能が決定する（神経圧迫がない状態で）ことであって、私やあなたの周囲の人、また病院の先生が教育された脳によって決められるものではないのです。

年だと思っあきらめているあなた、人間にはいろんな可能性があるので。あなたがまだ気づいていない無限の可能性が。カイロプラクティックで神経圧迫を取り除くことも一つのきっかけです。きっとこの自然の大きな力に感激されることと思います。

肉体の自然老化は防げない

胎児はお母さんのおなかの中にいる間も絶えず成長を続け、約二百八十日で母体から出産という形で外の世界へ出て来ます。そしてその後乳児→幼児→少年→青年→壮年→老年という段階を経てゆきます。一般的には老化は二十歳からなどと言いますが、それは人体を構成する大部分が、あるいは主要部分が二十歳位までに完成するからなのかも知れませんが、しかし本来老化というものは、人間であれ、他の生物であれ成長と同時に進行しているものであり、例えば生後十日目の赤ちゃんは十日分なりの、十歳の子供は十歳なりの、三十歳の人は三十歳なりの六十歳の人は六十歳なりの老化をしているのであって、老化は何歳からと決めるものではないと思います。先天的知能は自分の肉体に一番合った状態まで体の各部分を成長させますし、一番ふさわしいところでその成長を維持してゆきます。



そしてそこまでの間にも成長と老化は同時進行しているのです。存在するものには容赦なく時間が経過してゆきます。しかしそれは不変的な自然の法則なのです。

木を例にとりますと、今植えた苗木が一日で十メートル、二十メートルに生長することはまずあり得ません。一年、二年……と年輪をきざみながら生長してゆきます。そしてその木を切った時にその年輪がいくつあるかによってその木の樹齢を知る事が出来、ここに生長と老化の跡を同時に見る事が出来ます。

肉体（物質）の自然老化は、どんなに名医と言われる先生にも防ぐことは出来ないのです。しかし自然は人間の肉体にすばらしいものを与

	非物質(目に見えないもの)	物質(目に見えるもの)
先天的知能	100%完全	肉体
宇宙の英知	100%完全	宇宙空間の物体
電 気	100V	電気製品

↓
老化しない

↓
変化する(老化)

えてくれました。それは「心・精神」です。これはあなたの意志によりどうにでもコントロールする事が出来るのです。童心に戻る事も出来ますし、万年青年でいる事だって出来るのです。「年だからしょうがない」「若くはないのだから」と放棄するのではなく、年を取ることをもっと冷静に受けとめ、自信をもって前向きの姿勢で生きてゆきたいものです。好んで心(精神)まで老化させることはないのです。肉体は成長と老化が同時に進行します。しかしそこに宿るあなたの心(精神)は、年を取ると共に成長させてゆかなければならないのではないでしょう。それは人間に与えられた使命だと思ふのです。

肉体の病的老化は防げる

自然老化に対して病的な老化があります。すべての病気はこの病的老化に属するのかも知れません。なぜなら、体が十分に機能していない状態というのは何らかの症状を肉体に訴えるからです。

病的老化は、神経圧迫が肉体にもたらす異常事態なのです。そこで、カイロプラクティックではこの神経圧迫を取り除くことによって先天的知能に本来あるべき体に戻させます。例えばここにだれが見ても四十〜五十歳にしかみえない三十歳の病的老化の人がいるとします。そこでアジャストを受ける事により先天的知能からの調和をもたらす為のメッセージが伝達されるようになり、様々な症状が取れていって、本来あるべき三十歳のハツラツとした状態に戻る事が出来るわけです。

先天的知能からの情報が十分に伝達されている状態というのは健康な状態であり、健康な状態というのは病的老化を防止していることにもなるのです。ただし自然老化を防ぐ事は出来ませんが……。

カイロプラクティック依存症

カイロプラクティックは病気を治す（症状を取る）ことを目的とした療法ではありません。あなたがもし転んだり、どこかにぶつかったりして体に痛みを訴えておられるとしても、その痛みの原因が背骨のズレによる神経圧迫でない場合、痛みを取る為のアジャストはしません。なぜなら、そういった場合放っておいても時間の経過と共にその痛みは取れてゆくからです。例えば、普段運動もしていないのに急に一〇〇〇メートルを走って翌日筋肉痛で足が痛かったのに二三日したら自然に治ってしまった。というのと同じで、無理してそこで痛みを取る必要はないのです。

カイロプラクティックのアジャストメントは、医療において、病院の先生が出来るだけ薬を出さずに治そうとされるのと同じように、体に不必要なアジャストメントは出来るだけ

け避けたいのです。だれの手もかりずに自分自身の力（先天的知能）で治ってゆく。これにまさる自然の治療法はないからです。

健康を取り戻す為には、一方的にカイロプラクティックに頼るのではなく、もっとあなたが自分自身の体のことを知り、管理し、そして自信を持つ事によって勝ち取って欲しいものです。

薬物の依存症があるように、カイロプラクティックの依存症になって欲しくないものです。



定期的に検診を!!

どんなに立派な家でも車でも、時間が経つにつれて傷んできます。しかしそれもあなただけの手入れ次第で随分と違うはずです。同じように私達人間も年を経るにつれて体には様々な支障が出てきます。そこで家に補修や塗りかえやそうじがあるように、車に車検という定期検診があるように、人間の体も時々点検があっても不思議ではありません。

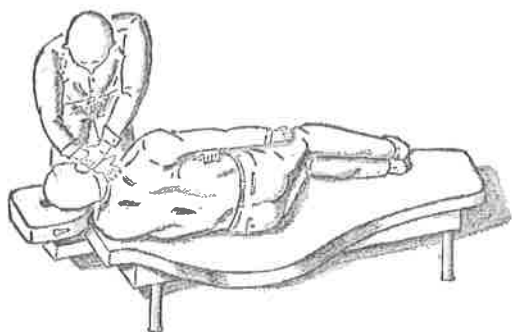
人間の太黒柱である背骨の中には大切な神経（脊髄）が入っていて、そこから枝分かれした神経が各組織・器官・細胞に伸びて脳からのエネルギーを送っているのはもうご承知の通りです。定期的に背骨の点検を受けて、背骨の管理をし、脳からのエネルギーが全身に完全に伝達されるようにしておくことは、あなたの健康管理の上で大切なことだと思います。

上部頸椎専門カイロプラクティック

上部頸椎専門カイロプラクティックでは

初めて来られた方に、よく「私が今まで受けていたカイロプラクティックの先生は、首や背中や腰の骨をボキッ・ボキッと矯正されていましたが、ここのは全く違うんですね。首をこんな風に治療されたのは初めてです。これで本当に骨が動くのですか？　今まで受けていたところでは首を矯正される時、ボキッという音がして、先生は……今骨が元に戻ったんですよ……と言われていたんですけど、先生のところでは何も音がしませんね。大丈夫でしょうか？」というような質問を受けます。

カイロプラクティックには、この方が言われるように背骨全体をアジャスト（治療・矯正）の対象にしたものと、頸椎（首の骨）だけ、また骨盤だけといった風にある特定のところを対象としたものがあるということは前に述べましたのでお解りいただけたと思います。



す。

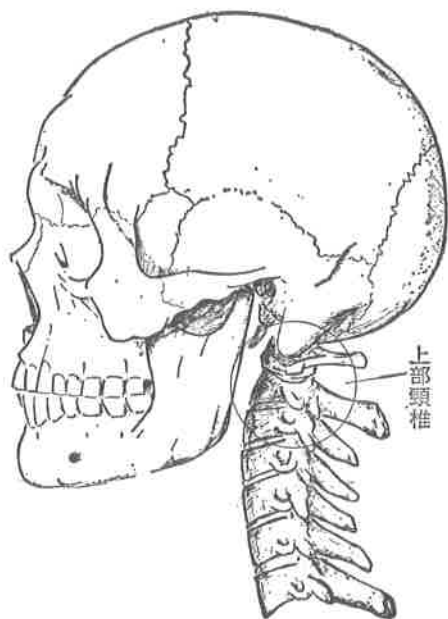
上部頸椎専門カイロプラクティックでは、頸椎（首の骨）だけをアジャストの対象にしており、しかも首のワカ所しかアジャストしません。このテクニク（方法は、カイロプラクティックの発見者であるD・D・パーマーの息子、B・J・パーマーが一九〇六年（明治三十九年）にパーマー大学の二代目学長に就任して以来、約三十年の歳月を費やして研究したもので、『直接病気の原因となる神経圧迫は首の上位の骨（上部頸椎）にあり、ここに神経圧迫が起こると人間本来に備わっている自然治癒力は弱められ、その結果病気が発生する。そこで、この神経圧迫を取り除くことにより首から下の背骨の矯正も、病気の診断・治療も脳からの先天的治癒力（自然治癒力）が行なうので触る必要はない』という学説を唱

えたのです。このテクニクの特徴は、最小の刺激で最大の効果をあげることにあります。なぜなら、人体は余分な刺激を必要とせず、自分自身の体の中に先天的知能（自然治療力）を持っているからです。これにはB・J・パーマーのカイロプラクティック哲学である『自然は助けを必要としない。なぜなら、自然においては妨害というものがなければ』という考え方が根底にあるのです。そして、首の骨のサブラクセイション（神経圧迫）をアジャストした後は放っておく。これはつまり、後の事（診断及び治療）は自然に任せるといふことなのです。

ところで、世の中どこを見渡しても完全無欠の治療法などありません。したがって上部頸椎カイロプラクティックを受けられるすべての人が期待以上の結果を得られるとは限りません。イネイトは一〇〇パーセントでもカイロプラクターは完全者ではないからです。しかし、たった「一カ所」のアジャストメントで周囲が認める程の治療率を示したとしたら、それはまさしく根本療法といって良いでしょう。もしあなたが少しでも内在の未知なる力に心を向けようと思われるなら、上部頸椎カイロプラクティックは常にあなたのためにあります。

なぜ首をアジャストするのか

首の骨（頸椎）の神経圧迫は全身に影響を与えます。そして上へゆけばゆく程その訴えられる症状も重いものとなってきます。上部頸椎（首の上位の骨）は他の背骨に比べ可動範囲が大きく、その上にボーリング玉位の重量の頭を支えているのですから構築学的にも非常に不安定な状態にあるのです。脳からのメッセージは背骨の中の脊髄を通じて各器官・組織・細胞に伸びた末梢神経を通して送られています。そしてその脳（先天的知能）が全身の調整・維持をしている事を考えますと、その先天的知能からのメンタル・インパルス（メッセージ）を送り出す出口となる首の骨がいかに重要であり、またそこに神経圧迫（サブラクセイション）が起こるといふ事は、体全体に与える影響がいかに大きいかという事がお解りいただけるでしょう。そしてこの脳に一番近いところ（出口）にあるのが上部

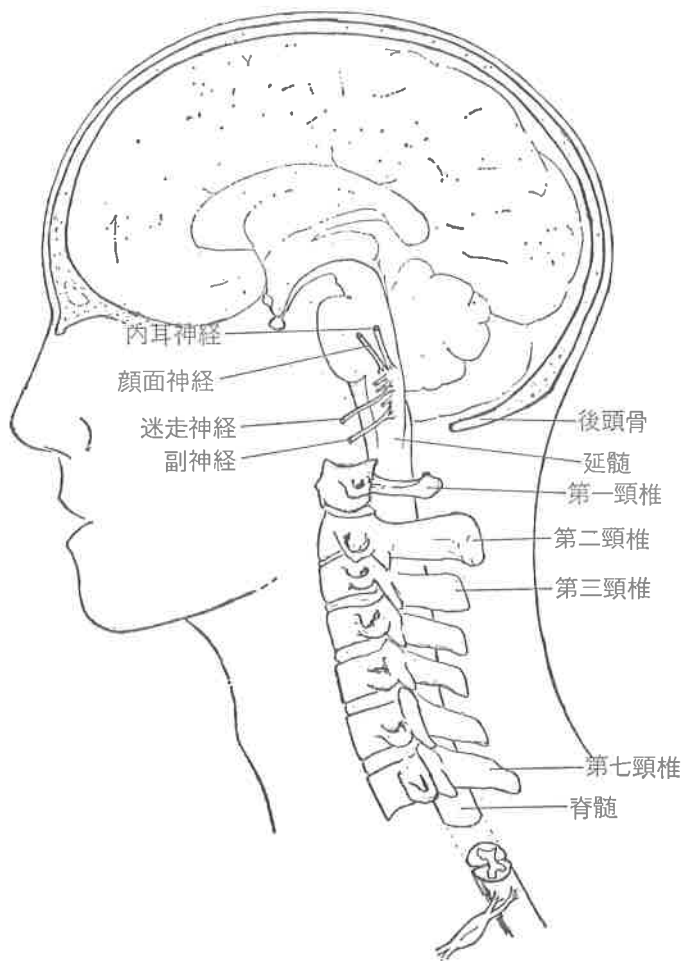


頸椎なのです。

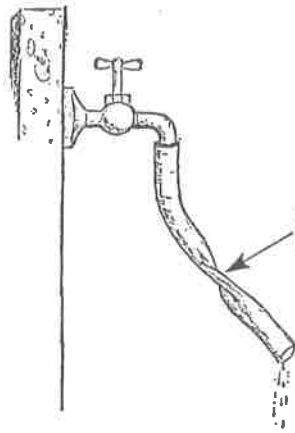
これをもっと詳しく説明しますと、上部頸椎を通過する脊髄には運動神経線維及び知覚神経線維が含まれており、

よってこの部位は外部からの刺激（情報）が脳に伝達される時の入口であり、又この刺激に対する応答（情報）が脳から出てゆく時の出口でもあるわけです。その他、上部頸

椎の上からは副交感神経で代表される迷走神経が殆どの内臓に分布しています。その他、顔面神経、内耳神経、副神経などの脳神経が頭や頸部を支配しています。ですからこの上部頸椎にサブラクセイション（神経圧迫）が起こりますと、当然頭の方（頭蓋骨）にも、ま



ホースが捻れて、水の出が悪くなる。人体でいえば神経圧迫の状態



た首から下にも様々な症状を訴えるようになるのです。

首がいかに大事であるかという事は、交通事故による「むち打ち症」や頭からの落下などでもお解りいただけると思います。それは首から上にも、また首から下にも様々な症状となって出てきます。例えば頭痛・目まい・眠気がひどい・目や耳の異常・イライラ・吐き気・肩凝り・やる気不起こらなくなる・疲れ易くなった・背中が痛い・姿勢が悪くなる・精神的に不安定になる・手や足がしびれるなど訴えられる症状は各々違いますが、それは全身に及びます。頸椎が骨折した場合はもっと深刻で、その度合により首から下の麻痺・半身不随・即死といった悲惨な結果になってしまいます。こと首の骨(頸椎)においては、その損傷度合によっていろいろな影響を及ぼすのです。なぜなら首から下への神経伝達が不可能になるからです。それはちょうどガスの元栓を締める事によりガスコンロの火がつかないのや、水道の

栓が開いているのにホースがねじれている為に水の出が悪くなるのに似ています。

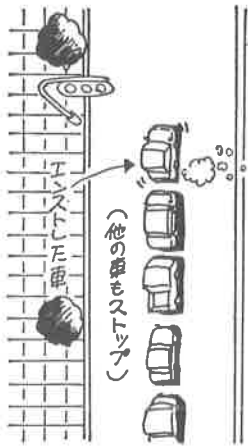
鏡の前に立った時、たまには「首」も見て下さい。そしてその上に頭、またその下に胴があるのに気付いて下さい。首はまさに脳（頭）と体（胴体）をつなぐ重要なパイプの役割をしているのです。

なぜ一カ所しかアジャストしないのか

現代は車社会、私達とは切っても切り離すことの出来ない存在になっています。ですからだれもが何らかの形で車の恩恵を受けています。ところで車に乗った経験のある方なら交通渋滞に巻き込まれたことがあると思います。車が渋滞するにはそれなりの理由があります。例えば、利用時間帯が皆同じであるとか、あるところで交通事故又は車の故障が起ったとか、道路工事の為片側通行であったなど。ここで私が言いたいのは「一つの事がすべて（全体）に影響を与える」という事です。車の流れがスムーズであるという状態は、体でいうと全体的にバランスのとれた状態（健康）であるということと同じであり、車がある所で故障して後続の車の走行を妨害するという事は、体でいうとちょうど神経圧迫が発生し様々な症状を引き起こすのと同じことなのです。この一つの事がすべてに影響

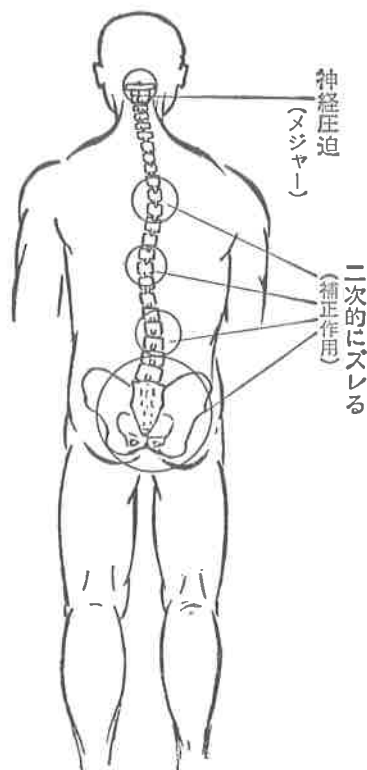
を与えるとは、表現を変えると「宇宙の英知あつての宇宙の存在」「真実の一つ」「原因のない結果はありえない」と同じであり、これは私達の体にも言える事なのです。

首の骨（頸椎）は、重い頭を支えるという非常に不安定な状態にありますので、何らかの原因で頸椎にショック（例えばむち打ち・高過ぎる枕・寝違い・鉄棒からの落下・後方から急におどかさされる・なぐられるなど）が加わり頸椎がズレますと、首から下の背骨は脊柱全体の負担を軽くしようと（バランスをとる為に）あえてズレを起こします。これを「補正作用」といいます。このようにズレが起こりますと当然姿勢も悪くなり、補正作用としてズレ



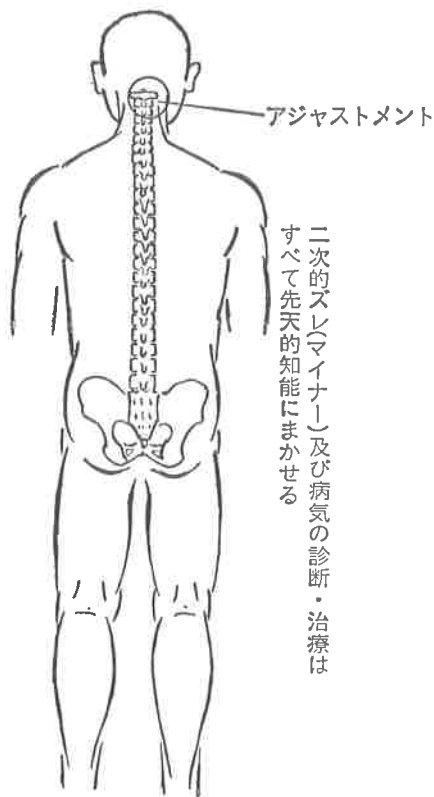
レを起こした背骨が二次的に神経を圧迫し、その神経支配を受けているところは具合が悪くなってゆきます。言い替えますと、背骨を構成する二十六個の椎骨のうちの一つが変位（ズレ）を起こすと、必ずその上下の椎骨にも影響を与え、背骨全体（骨盤も含む）ひいては体全体に影響を与えるのです。そしてこ

の一つの椎骨の変位によるサブラクセイション（神経圧迫）こそすべての病気の原因とな
 りうるのです（メジャー）。そしてそれが上部頸椎といえます。ですからこのテクニクで
 はあなたの背骨が猫背であっても、腰が曲がっていても、側彎であっても、背骨に出っぱ
 りがあってもその部分はアジャスト（治療）しません。また、足が冷えていても、胃や肝

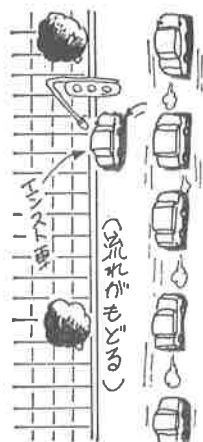


(1 図 後方からみた図)

臓が悪くても、足首のねんざでも、腰痛や肩凝りでも、頭痛でも、便秘であっても、原因である首の一カ所しかアジャストしません。つまり、この首のサブラクセイション（神経圧迫）を取り除くことにより、あなたの先天的知能にあなたの背骨の矯正及び病気の治療をさせるからです。ですから例えば背骨に五カ所のズレがあるとしても原因となるのはそのうちの二カ所であり、その原因を取り除くと結果である（補正作用による）他の四カ所



(2 図 後方からみた図)



のズレは先天的知能が矯正するということでは、ちょうど故障した車を運び出してその渋滞の原因を取り除くと車の流れがスムーズにゆくように、人体も原因を取り除くことと時間の経過によって姿勢も症状も改善されてゆくのです。

この五カ所のズレを全部アジャストして姿勢を正しくし、痛みなどの症状を取ってその部分を一時的に調子を良くしたとしても、それは自然（先天的知能）がそうさせたのではなく、私の考えによって無理に矯正したのですからその無理をした分、また自然に逆らった分は後日どこかに何らかの形でしわ寄せがくる事を覚悟せねばなりません。

私たちカイロプラクターの使命は、あなたの背骨のどこに原因となるサブラクセイションがあるかを調べ、サブラクセイションがあった場合はアジャストをする（後天的知能の最小限の活用）だけなのです。後はあなた自身の先天的知能に任せます。あなたの病氣（症

状)を治す為に私の教育された脳がそれ以上介入しては自然の力を妨害する事にもなりかねないのです。

上部頸椎カイロプラクティックは、生命の本質である先天的知能と肉体との完全融合を妨害する、「唯一のサブラクセイション」のみ取り除くことを目的としており、他のカイロプラクティックで見られる様な数カ所のアジャストメントや、整体、整骨、指圧、マッサージ、鍼、超音波、磁気、気功、心霊治療、呼吸法など他の治療との併用は一切致しません。あくまでも混ぜ物ではない純粹のカイロプラクティックを実践します。

アジャスト後どうなるのか

では、首をアジャストする（神経圧迫を取り除く）とどんな変化が起こるのでしょうか。

あなたが仮に、手足の冷え・腰痛・背部痛・膝痛・手首痛・頭痛・手術後の内臓癒着・肩こり・歯槽膿漏・股関節脱臼（完全脱臼ではない）・水虫の症状を訴えて来られたとします。

そこで私はあなたの首のサブラクセイション（神経圧迫）をアジャストします（このアジャストというのは、あなたがまばたきを一回する位の早さで終了します）。そしてその後しばらく横になって休んでいただきます。アジャスト後一分、二分と時間が経過することに手が暖かくなってきたり、腰や背部や手首や頭そして癒着の部分や膝や股関節などあなたが痛みを訴えていたところに一旦痛みが出てきたり、暖かくなってきたりします。また歯槽

膿漏のところポワーッとしたり水虫のところガビリビリしたり暖かくなったりしてきます。肩こりのところは一瞬より重く感じたりする場合があります。その後二十分、三十分と経るにつれて背部痛が取れて腰の方へ下がり、腰が良くなったら膝が痛くなり、膝が良くなったら足首へというように末梢の方へ痛みが移動し抜けてゆきます。暖かくなるのも同じで徐々に末梢の方まで暖まってゆきます。このように痛みが移動したり、体がポカポカしてくるのは殆どの方に現われます。但し、重症の糖尿病の方や、婦人科疾患の手術を受けた方の中にはなかなか体が暖まってこなかったり、寒気と暖かい感じが交互に現われたりする場合があります。その他、昔痛めた足首が雨の降る前など決まって痛いという方は、必ずそこにも一旦痛みが出てきます。そして先天的知能により矯正されてゆきますと、時間の経過と共に痛みや症状は自然に緩和され、または取れてゆきます。以上は私が頸椎のアジャストをした後一時間内に起こる反応の例です（中には何の変化も起こらない、感じない方もおられます）。

第二回目のチェックもしくはアジャストは約二〜三週後です。なぜそんなに期間を開けるのかについては後で述べますが、その間あなたの体にはいろんな好転反応がみられるで

しょう（特にそう感じられない方もいますが）。例えば、ずい分痛みが和らいできた、部分的にすごく痛い時もあるがそれも毎日ではなくなってきた、歯ぐきの出血も以前に比べると少ない、水虫の範囲が狭まってきた、宿便が出た、など。そして二回目のアジャストを受けられた場合、その間に完治したところには特に変化は起こらなくなります。また完治していないところに関しては前回と同じような反応が現われてきます。そして良くなるにつれてアジャスト後の眠気・倦怠感は徐々に軽減してゆきます。

どのような症状であれ、完治するのに要する時間は一時間以内であったり何週間も要したりと様々で、一定ではありません。それはあなたが病気に至った経過や、今後の身体に対する管理によっても違ってきます。そして、どこから治るのか、どのように治るのかはあなたの先天的知能が決定してくれることであり、自然の法則に任せるほかありません。

私達には普段気づいていない可能性がたくさん備わっていて、病気を治すというののもそのうちの一つなのです。

アジャスト後なぜ休ませるのか

首のアジャスト後、その状態でしばらく休んでいただきます。それは、あなたが訴えられた症状、あなたがまだ気付いていない潜伏中の症状、またあなたが以前痛めた古傷のところを先天的知能がちゃんと診断を開始し治療を始めているかどうかを確認する為なのです。そして私は「どんな感じですか？」と聞きます。それは、あなたの先天的知能（自然治癒力）が働いている状態を、あなた自身の体を通して知っていたきたいからなのです。私達の体には自分で自分を治す力が備わっていて、それが自分自身の病気の診断及び治療をするという事を再発見・再認識していただきたいのです。

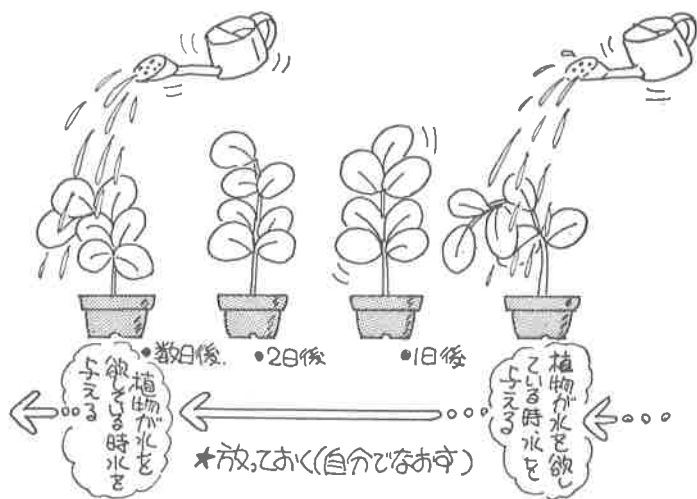
また、アジャスト後体を休めるということは、その効果を倍増させアジャストの回数を少なくすることにもつながるのです。

なぜ期間をあけるのか

私のオフィスでは一回のアジャストから次回のアジャストまで二〜四週間の期間をあけます。そこでまずアジャストを初めて受けられた方が質問されるのは「こんなに期間をあけて大丈夫でしょうか」「こんなに期間をあけて元に戻ることはないのですか」という事です。このような質問をされるのは今までに毎日または二日おきという風に病気の治療の為に病院や治療院に通っておられた方だと思います。私のオフィスではこれまでも述べましたように病気の原因となりうる神経圧迫を取り除くのですから、そう頻繁に通って来られる必要もないわけです。もし本当に人間に自然治癒力があるのだったら、なぜ毎日治療を受ける必要があるのでしょうか。自然治癒力を無視していいのでしょうか。確かに病気の治療と神経圧迫の治療（アジャストメント）はお互いに治療対象が違いますのでその期

間の開け方も先生によって違うのは当然ですが、上部頸椎専門カイロプラクティックでは神経圧迫を取り除いたら後は自然に任せます。ですからこの二〜四週間と期間をあけるには特別な根拠があるわけではないのです。本来は週に一、二度その後のチェック（検査）に来ていただき、それによっていつアジャストするかを決めるのが理想なのですが、検査だけの為にわざわざ遠方から来られる方も少ないものです。そこでこの二〜四週間という期間を置いて、アジャスト後から次回までの間に、あなたが訴えられていた症状がどれだけ改善されたか完治していったのかをみるのです。また人によってはその期間中に痛みが出て、悪くなったのではと錯覚される方や、心配になられる方もいますので、その場合は電話で連絡をとっていただくようにしています。そしてその反応がいいのか否かは双方で経過を追って判断していきます。

私と同じように上部頸椎専門カイロプラクティックを行なっておられる先生によってもその期間のあけ方はまちまちですが、共通しているのは「出来るだけアジャスト（治療）しない」「本当に必要な時だけアジャストする」ということです。例えばここに萎れた植物があるときとします。そこで私に出来るのは、まず水を与えることです。するとその植物は



自分自身で水分を吸収し元氣を取り戻してゆきます。そして次に私に出来るのは、また水が渴いて来たら水を補給してやることです。ところが私がその植物を可愛がる余り、毎水をたて続けに与えた場合どうなるでしょう。植物の先天的知能を無視してしまつたのですからおそらく元氣になるところか根腐れしてしまふでしょう。これはアジャストにも言えるのです。自然（先天的知能）を無視した毎日のアジャストは健康に導くどころかむしろ逆効果をもたらすことにもなりかねません。

『自然は助けを必要としない』（B・J・パーマー）なぜなら、人体は余分な刺激を必要と

せず、自分自身の体の中に先天的知能（自然治癒力）を持っているからです。そしてこのことはすべての生き物に対して言えるのです。

古傷が現われる

神経圧迫を取り除きますと、あなたの先天的知能はあなたが誕生した過去の時代にまでも遡まかのぼって、あなたの体にかつて起こったことで未解決の部分が残っていたとしますと、その問題となる古傷（症状）を一つ一つ治してゆきます。ですからこの時あなたが治ったはずだと思っていたところに痛みとか暖かくなるといったような好転反応が起ります。なぜこのような事が起こるのかといいますと、あなたが例えば昔、腰痛と肋間神経痛で苦しんでいたが今は何ともないと思っておられても、アジャスト後その部位に痛みや反応を感じるとしたら、この場合、その時は（昔）痛みを取る為の治療を受けたのであって、痛みの原因つまり病気の原因は治っていなかった。ということになるのです。このように原因でなく結果（症状）だけを治していた方は結果を治療している間に原因が進行してしまう

という結果にもなりかねないので。この事は今あなたが新たな病気で苦しんでおられるという事で証明されます。

同じ「症状がとれた」ということにおいても結果（痛みの部分）を治療して痛みがとれたのと、原因（神経圧迫）をとって痛みがとれたのでは大きな違いがあります。勿論、適切な処置を受けられて良くなられた方も大勢おられます。その場合はその部位には何の反応も起こりません。

この古傷の再発は体に関してのみでなく人間社会においても言えそうです。隠し事はいずれ何らかの形で表面化します。また人間の行動に対する結果はいずれ何らかの形で現われます。そしてそれが本当に良いことか悪いことかは宇宙の英知（ユニバーサル・インテリジェンス）が決定するのです。それは宇宙全体の秩序を保つ為の必然的行為なのです。

例えばいつもゴタゴタの絶えない家族というのは、そのゴタゴタの原因を追求し改善していかないかぎり、いつまでたっても楽しい家庭を築くことは出来なんでしょう。原因を放っておいてその場のぎに生活していてもいずれまた問題は表面化してきます。原因は解決していかないのですからその問題に真正面から取り組んでこれを乗り越えてゆかなければ

ば良い結果は生まれません。この事は神経圧迫を取り除くことにより先天的知能が人間本来の姿に導く（健康になる）のと同じ事で、宇宙の英知が本来あるべき家庭の姿（楽しい家庭）に戻すのです。

自然がすべてを決定する

人が何かを始めようとする時、まずその仕事が無滑にゆくように段取りを組んで（知恵・教育された脳によって）予定を決めてゆきます。例えば家を建てる時、まずどのような家にするか設計し、地鎮祭・地ならし・家の土台作りそしていよいよ本体へと進んで、その日の予定に従って仕事を進行させてゆきます。

この事は自然にもいえます。人間の体は自然の力が創り上げたものです。従って病気を治すにも自然の法則に従って先天的知能がどこから治すのかを決定します。つまり人間が段取りを組んで仕事を進めると同じように、あなたの先天的知能は健康を取り戻すためにあなたの体のすべてをチェックして、どこから治すかを決定しその順序に従って治してゆくのです。ですからあなたが持っておられる様々な症状（例えば腰痛・頭痛・肩こり・冷

え・水虫など)の中から「とにかく腰痛を先に治して欲しい」と訴えて来られても(この治療方法は私が治療してあげるのではなく、神経圧迫を取り除くことによりあなたの先天的知能が治してゆくのですから)必ずしも訴えられるところ(この場合は腰痛)から治るといふ保証はないのです。先天的知能がどこから治すかを決定し治療するのですからあなたが望んでおられる腰痛より先に冷えや肩こりや水虫や頭痛が治ったりします。

もし私があるたの希望通り腰痛を治す為の治療をし、その場でその痛みから解放したとしたらそのひずみは必ずどこかに生じるはずです。なぜなら自然の法則を無視して症状を取るといふことは、そこに時間の短縮というものが生じるからです。原因を取り除いて時間の経過と共に治るといふ自然の法則を、一拳に飛び越えてほんの数分で解決してしまうのですからその分はいずれ新たな症状となってあなたを苦しめる事になるのです。何事も達成させる為には順序があるように、健康に到達するにも自然の順序があるのです。

アジャストを受けられた方の中には「ちっとも良くならないんです」「まだ痛いです」と訴えられる方がおられます。この「ちっとも良くならない」とはその方が一番つらいところがまだ良くなっていないという事です。しかし体全体をながめてみますと他の訴えら

れていた症状は殆ど改善されている場合が多いのです。カイロプラクティックの目的は前にも述べましたが症状（痛みなど）をとる治療法ではありません。私は一番つらいところだけが治るよりいろいろな箇所が良くなった方がいいと思うのですが皆さんはどう思われますか。それでもとにかく一番つらいところを治して欲しいといわれるのであれば、あなたの希望をかなえて下さる治療家の先生のところへ行かれた方が良いと思います。

この首をアジャストする方法は、あなたがどこに痛みを訴えようと、どこが病気であろうと、何の病気であろうと、どんな症状であろうと、具合の悪いところがいくつあろうとも一切構いません。なぜならカイロプラクティックはそれらの原因となりうる神経圧迫を取り除き、あなたの先天的知能に体のすべての病気を診断・治療させるからです。自然治癒力は何もあなたが一番つらいと思っておられるところにだけ働きかけるのではなく、全身に働きかけるのだということをお願い出して下さい。

本当にいいものって何？

本当にいいもの、悪いものを判断する基準は、個人個人の生き方・考え方によって違いがあると思います。そしてそうあってもよいと思います。しかしそれも真実という部分では共通するのではないのでしょうか。

世はまさに多様化時代。健康に関しても連日「健康に良い」とされる様々な方法がマスコミなどを通して紹介されています。「これは〇〇〇に効果がある」「これは〇〇〇の特効薬である」などと次から次に新しい物、また新しい方法が出てきます。しかし、例えば胃薬の場合ですと、それは当然胃に対して良い結果をもたらすものなのかも知れません。でもそれは胃に対してのみ働きかけるのでしょうか？ 他の部分に何らかの作用（副作用）を起こすことはないのでしょうか？ 残念ながら胃薬は腸でも吸収され、血液によって全

身に運ばれるのです。これは例にとった胃薬に限っていいことではなく他のものに対し
てもいえるのです。「健康に良いもの」それは体全体にとってもいいものでなければなら
ないはずです。そして本当に「良い薬」というものは胃にも良く、そして体全体にも良い
影響を与えるものでなくてはならないのです。また、病気の人を本当に健康に導く為のも
のであるならば、同じものを健康な人が摂っても害のないものでなければならぬと思い
ます。子供が食べてよいものは大人が食べてもよいものであるはずだし、大人が食べても
よいものは本来子供にだってよいものはずです（勿論、量の加減はしなくてはなりません
が……）。

「たばこ」を吸っておられる方の中には、「たばこを吸うと気分が落ち着く」「太っていた
のが痩せた」などと言われる方がいます。吸うか吸わないかの問題は特にここで取り上げ
ませんが、もしそれが本当に体にとって良いものであるのなら、落ち着きのない子供にも
それをすすめることが出来るでしょうか。いくらあなたが愛煙家であってもきつと心の隅
で「子供が吸うものではない。体にいいはずがない」と思われるでしょう。それは「本当
はたばこは体に良くない」ということを知っておられるからです。

本当に体にいいものというのは「どこどこにいい」というように限定出来るものではないのです。ですから「〇〇病にいい」というものであればそれは体を部分的にみているのであって、その部分の症状だけを取ることが目的なのですから、他の何ともない部分にも悪影響をもたらす場合が出てくるのです。これでは、その病気を治すこと（症状をとること）は出来ても健康になるとはいえません。又新たな病気をひき起こすことにもなりかねないので。本当に健康に導いてくれるものというのは、その行為が結果的に体全体にいいものであるはずです。反対にその行為が部分的な改善にしかならないものであれば、結果的には健康への道から益々遠のいてゆくことになるでしょう。

自然治療力と

カイロプラクティック

昭和六十一年五月十日 初版発行

平成二年十一月十日 五刷

定価二二四〇円
(本体二二〇四円)

著者 賀 来 史 同
か く よ み お

製 作 榑 講 談 社 出 版 サ ー ビ ス セ ン タ ー

東 京 都 文 京 区 音 羽 一 一 一 二 第 二 音 羽 ビ ル
〒 二 三 二 電 話 〇 三 〇 四 〇 五 七 一 一 四 八

印 刷 信 每 書 籍 印 刷 株 式 会 社

製 本 中 沢 製 本 所

© 賀 来 史 同 一 九 八 六 年 Printed in Japan
著 者 本 ・ 乱 丁 本 は お 取 り か え い た し ま す

ISBN 4-87601-108-7